



# 地質調査所報告

第七十號

歐洲戰場ニ於ケル鑛產地領有ノ戰局ニ及ホセル影響

內閣統計局



JUL 21 1924

~~MAR 5 1925~~



歐洲戰場ニ於ケル鑛產地領有ノ戰局ニ及ホセル影響

歐洲戰場ニ於ケル鑛產地領有ノ戰局ニ及ホセル影響

目次

緒言	……………	一頁
第一章 石油	……………	五頁
一 世界ニ於ケル石油產出額及交戰國ニ於ケル石油ノ需給	……………	五頁
開戰前	……………	五頁
(一) 開戰後	……………	二〇頁
(二) 交戰地域ニ於ケル油田	……………	二八頁
瓦利亞及羅馬尼油田	……………	二九頁
一 瓦利亞油田	……………	二九頁
二 羅馬尼油田	……………	三三頁
三 瓦利亞及羅馬尼油田ノ爭奪	……………	三八頁

四 開戦前後ニ於ケル石油供給ノ變動……………四一頁

第二章 石炭……………四五頁

一 開戦前ニ於ケル石炭ノ産出額及交戦國ニ於

ケル石炭ノ需給……………四五頁

二 交戦地域ニ於ケル炭田……………四九頁

(一) 露獨塊ニ跨レル炭田……………五〇頁

甲 炭田ノ状態並ニ開戦前ニ於ケル状況……………五二頁

一 露國「ドムプロヅア」炭田……………五二頁

二 奥國「オストラウ、カルウヰン、クラカウ」炭田……………五八頁

三 獨國「アツバー、シレシア」炭田……………六一頁

乙 開戦後ニ於ケル状況……………六四頁

獨逸「ザール」及佛國「ボンタ、ムーソン」炭田……………六五頁

(三)(二) 歐洲北部大炭田……………六八頁

甲 炭田ノ状態及開戦前ニ於ケル状況……………六九頁

一	獨國「ウエストファリア」炭田	六九頁
二	白耳義炭田	七〇頁
三	佛國北部炭田	七一頁
乙	開戦後ニ於ケル狀況	七三頁
三	開戦後ニ於ケル石炭供給ノ變動	七五頁
第三章 鐵 鑛		
一	開戦前ニ於ケル鐵鑛業	八三頁
二	交戦地域ニ於ケル鐵鑛地	八九頁
(一)	「ロレーン」州鐵鑛地	八九頁
一	鐵鑛量及產出額	九〇頁
二	普佛戰爭ト本鐵鑛地	九三頁
三	開戦後ニ於ケル本鐵鑛地	九五頁
(二)	波蘭鐵鑛地	九八頁
二	開戦後ニ於ケル鐵鑛供給ノ變動	一〇五頁

結

論

.....

一一一頁

# 歐洲戰場ニ於ケル鑛產地領有ノ戰局ニ及ホセル影響

農商務技師  
地質調査所長

理學博士

井上禧之助

## 緒言

戰時ハ固ヨリ平時ニ於テモ各種鑛工業及交通運搬ノ基礎タルヘキ原料及之ヲ活動セシムヘキ燃料並ニ減磨材料ハ一日モ之ヲ缺クヘカラサルナリ、現戰爭ハ一面ニハ武器ハ固ヨリ各種鑛工業及交通運搬ノ戰爭ニシテ其供給及發達ノ如何ハ戰爭ニ大ナル影響ヲ及ホシ勝敗ノ決ハ或ハ之ニ由テ決スト稱スルモ過言ニアラサルカ如ク、此等物件ノ大半ハ鑛物界ニ存在ス、隨テ鑛物ノ最モ必要ナルコトハ言フヲ須キサルナリ、加之鑛物ハ他ノ天然物ト異ナリ一度之ヲ採掘スレハ再成スルモノニアラス、故ニ其必要ナルト共ニ之カ保存ニ努メ之カ節約ヲ期セサルヘカラサルナリ

現歐洲戰爭ノ開始セラレ、ヤ食料其他ノ問題ニ關シテハ各種ノ方面ヨリ攻究セラレ種々ノ調査ノ施行セラレタルモノアルモ、戰局ニ大關係ヲ有スル鑛物ノ問題ノ如何ニ重大ナルヤヲ顧ミルモノ少ナキハ遺憾トスルトコロナリ、各種ノ調査研究ニ對シ周到ナル獨逸ハ深ク茲ニ留意シ戰局ノ發展ト鑛山地トニ見テ殊ニ其然ルヲ覺ユルモノアリ歐洲各交戰國ノ此必要ナル鑛產地ヲ領有スルコトハ直接間接ニ戰爭能力ニ多大ナル影響ヲ來スヘキヤ論ヲ待タス、而シテ武器並ニ各種鑛工業ノ基礎タルヘキ原料ノ主ナル金屬鑛物ニ就テ之ヲ見ルニ、其最も必要ニシテ多量ニ使用セラル、ハ鐵ナリトシ、其使用量ハ平時ニ於テモ頗ル莫大ニシテ到底他ノ金屬ヲ以テ之ニ代用スルコト能ハサルナリ、試ニ千九百十年ニ於ケル各種金屬鑛物ノ產出額及其價格ノ百分比ヲ見ルニ大約左ノ如シ(同年ニ於ケル鐵產出額ハ六千七百餘萬噸ナリ、即チ產出額ハ最も大ニシテ價格ハ最も低廉ナリトス)

第一 表

種 別	産 出 額 (百分率)	價 額 (百分率)	一噸價額比率(鐵ヲ一トス)
鐵	九五・六二	四六・二	一
鉛	一・六七	三・五	四
銅	一・二三	一一・〇	二〇
亞 鉛	一・一九	四・五	八
錫	〇・一七	四・三	五二
「アルミニウム」	〇・〇六	〇・七	二四
「ニッケル」	〇・〇四	〇・八	四六
銀	〇・〇一一	六・三	一、二〇〇
水 銀	〇・〇〇六	〇・三	九〇
金	〇・〇〇一	二一・四	四〇、〇〇〇

鐵ハ此ノ如ク多大ニ使用セラレ其如何ニ重要ニシテ他ノ金屬ヲ以テ之ニ代用スルコト能ハサルカヲ知ルニ足ラン、換言スレハ鐵鑛產地ヲ領有スルト否トハ直接間接ニ戰局ニ大影響ヲ及ホシ鐵ニシテ缺乏セハ延テ戰爭ヲ繼續スルコト能ハサルヘシ、由來中央歐洲ニハ金、銀、銅等ノ金屬ハ其產出額甚々少ナク、之ニ反シ前記ノ如ク金屬中最モ必要ナル鐵鑛ハ甚々豊富ナリ、開戰ノ當初ヨリ獨逸ハ其領有ニ對シ深甚ノ注意ヲ以テ其師ヲ進メタルヲ見ル

石炭ノ必要ナルコトハ茲ニ叙説ヲ要セサルヘク、其使用量ハ甚々莫大ニシテ其產出地ハ即チ大鑛工業ノ發達スルトコロナリ、隨テ其領有ノ如何ハ獨リ石炭ノミナラス各種鑛工業ニ及フヘシ、而シテ中央歐洲ニハ佛、獨、白ニ跨カレル大炭田アリ、露、獨、埃ニ跨カレル大炭田アリ、戰爭ノ開始ト共ニ直ニ獨軍ノ著目スルトコロトナレリ

石油及其製品ハ獨リ燃料トシテ必要ナルノミナラス飛行機、自働車等ノ發動機ニ缺クヘカラサルモノナリ、此外機械油トシテ其使用量頗ル

多ク到底他品ヲ以テ之ニ代用スヘカラサル巨額ニ達ス、而シテ獨逸ニ於ケル油田ハ大ナラサルモ、埃、洪國ニハ瓦利西亞油田アリ、之ニ接シテ羅馬尼油田アリ、共ニ戰局ニ於ケル大ナル目標ノ一タリ  
以上舉クルトコロノ三鑛物ハ戰時ニ於テ必要缺クヘカラサル最モ重要ナル物資ニシテ其一ヲ失フモ戰爭ヲ繼續スルコト能ハサルハ明カナリトス、戰爭ノ開始セラル、ヤ獨逸ハ直ニ之ニ注目シ戰術上固ヨリ大ナル意義アルヘシト雖モ其攻防ノ跡ニ見ルニ以上三鑛物ノ產地ハ其領有若クハ破壞ノ大ナル目的ノ一タリシヤ疑フヘカラス、即チ茲ニ此等鑛產物ニ關シ戰局ノ如何ニ開展セルヤヲ叙セントス

## 第一章 石油

### 一 世界ニ於ケル石油產出額及各交戰國

#### ニ於ケル石油ノ需給

#### (一) 開戰前

千九百十年以後ノ世界ニ於ケル石油產出額ヲ舉クレハ次ノ如シ

第二表 (單位「バートル」)

國名	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年	千九百十四年	千九百十五年	千九百十六年	千九百十七年
國名	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年	千九百十四年	千九百十五年	千九百十六年	千九百十七年
北米合衆國	二〇九, 五七〇, 二四八	三三〇, 四九〇, 五六一	三三三, 九三五, 〇四四	二四八, 四四六, 三三〇	三六五, 七六三, 五五五	二八, 一〇四, 一〇四	三〇〇, 七七七, 一五六	三四一, 八〇一, 〇〇〇
露 國	七〇, 三五六, 五五四	六六, 一八三, 六九一	六六, 〇〇九, 三三八	六五, 八三四, 三六六	六七, 〇〇〇, 五三三	六六, 四八〇, 〇六二	七三, 八〇一, 一〇〇	七〇, 〇〇〇, 〇〇〇
墨 西 哥	三, 三三三, 八〇七	一四, 〇〇五, 六四九	一六, 五八八, 三三三	三三, 九二二, 四九九	三二, 一八八, 四三三	三三, 九二〇, 五〇八	三九, 八二七, 〇三三	六〇, 〇〇〇, 〇〇〇
蘭領東印度	一一, 〇〇〇, 六〇〇	一一, 一七三, 九四九	一〇, 八四五, 六四四	一一, 九六六, 八五七	一二, 七〇五, 二〇八	一二, 三六六, 八〇八	一三, 一七四, 三九九	一四, 〇〇〇, 〇〇〇
羅 馬 尼 亞	九, 七三三, 〇六六	一一, 一〇七, 四五四	一一, 九七六, 三三三	一三, 五五四, 七七八	一三, 八三六, 五九九	一三, 三三九, 九三三	一〇, 九八八, 三三三	一〇, 〇〇〇, 〇〇〇
印 度	六, 一七七, 九八〇	六, 四四五, 三〇〇	七, 一六六, 六三三	七, 九三〇, 四九九	六, 一九〇, 四七六	六, 八三三, 三三三	八, 二二八, 五七三	八, 五〇〇, 〇〇〇
秘 露	一, 三三〇, 一〇五	一, 三六八, 三三四	一, 七五二, 一四三	二, 一三三, 三六一	一, 九七七, 八〇三	二, 四八七, 二五二	二, 五五〇, 六四五	三, 七〇〇, 〇〇〇
日 本	一, 九三〇, 六二二	一, 六五六, 九〇三	一, 六七二, 四〇五	一, 九四三, 〇〇九	二, 七七八, 三六六	三, 一八八, 四六四	二, 九九七, 一七八	三, 二五〇, 〇〇〇
澳 洲 (主ニ瓦利亞)	二, 六三三, 六八八	一〇, 五五九, 三七〇	八, 五五五, 一七四	七, 八八八, 三三〇	推定 五, 〇三三, 三三〇	推定 四, 一五六, 八九九	六, 四二五, 七〇六	五, 〇〇〇, 〇〇〇

獨逸	1,033,533	1,017,045	1,031,050	推定 995,764	推定 995,764	995,764	995,764	1,000,000
埃及		9,150	205,905	94,355	777,058	31,768	411,000	570,000
「トリニダッド」	142,857	285,307	436,805	53,626	643,553	750,000	1,000,000	2,700,000
加奈太	325,895	291,096	243,326	238,080	224,805	225,464	198,133	200,000
伊太利	50,830	74,709	5,778	47,256	39,849	41,500	42,143	44,000
「アルゼンチン」					600,000	56,110	870,000	1,900,000
其他	20,000	45,000	105,000	270,000	110,000	1,500,000	25,000	30,000
合計	376,653	345,651	353,484	384,667	399,264	429,296	406,407	500,540

此ノ如ク主要ナル油田ハ聯合國ニアルモ英、佛兩國ニハ殆ント其產出  
 ナク石油頁岩アリテ是ヨリ石油ヲ採取スルモ其量ハ僅少ナリトス、同  
 盟國ニハ稍大ナル瓦利西亞油田ト獨逸ニ少量ノ產出額トアルノミ  
 獨、埃等ノ同盟國ニ於ケル使用量ハ平時ニ於テハ千萬「バレル」ヲ超過

スヘク、其統計ニ於テ疑フヘキモノアルモ其使用額ヲ擧クレハ左ノ如シ  
 獨逸

第三表 (單位「バレル」)

種別	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
産出額	一、〇三二、五二二	一、〇一七、〇四五	一、〇三一、〇五〇	九九五、七六四
輸入燈油	八、九一六、七〇五	七、五〇〇、五三五	六、二四〇、八三六	五、八五一、九〇八
輸入機械油	一、五六七、五〇九	一、七六九、六四六	一、六三九、〇〇四	一、八四三、四八七
輸出燈油	三、七〇五	二、一五一	一、九一五	
輸出機械油	一一六、五五五	一二八、五五四	一三三、五二八	

以上ノ外揮發油等ノ輸入アリテ其額百五十萬「バレル」以上ニ達シ、  
 千九百十三年ニハ揮發油ノ輸入額百七十三萬九百六十四「バレル」

(二十四萬七百四十六噸)ニシテ同年ノ總輸入額ハ千五十八萬八千九百七「バーレル」百四十七萬二千七百二十七噸ナリト云フ、更ニ一統計ニヨレハ其輸入額左ノ如シ

千九百十三年輸入 (單位「バーレル」)

原	油	五、七八〇
揮	發	油
		一、二一二、七三一
重	質揮發	油
		六〇〇、五五八
燈	油	五、一四五、八二九
機	油	一、四五八、七六二
鑛	油	四九、七六九
重	油	六六、一六一
計		八、五三九、五八九

供	給	國	揮	發	油	燈	油	機	械	油
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

北米合衆國	三一八、五九八	三、九六八、五〇五	六〇一、六一九
澳 洪 國	五七一、六五六	八二六、三六二	二三〇、〇七七
羅 馬 尼	三八二、一七一	三三〇、一七七	七九、六三七
露 國	三二六、八二七	一二〇、七八五	五三九、一二五
蘭 領 印 度			一二七、九七〇
計	一、二一二、七三一	五、一四五、八二九	一、四五八、七六二

第四表 (單位「バレル」)  
 澳  
洪  
國

種 別	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
產 出 額	一二、六九二、六七〇	一〇、五三五、〇二三	八、五五五、八九一	七、八三三、二二五
輸 入 原 油	一三六、六三四	一三七、三〇四	一二八、六九三	一三七、七〇〇

輸 入 製 精 油	輸 出
一三二、四一四	一、九五四、五六二
一五四、九三五	一、五八七、五九三
一六六、〇五一	二、四三五、五五一
二四七、九八二	一、七六五、三二五

千九百十三年ノ輸出額ハ揮發油三十七萬九千二百二十三「バーレル」、燈油百九十九萬千六百二十二「バーレル」、機械油九十二萬八千十八「バーレル」、合計三百二十九萬八千八百六十三「バーレル」ナリト云ヒ、前掲ノ輸出額ト多大ノ相違アリ、前掲ノ數字ハ或ハ燈油ノミニアラサルヤノ疑アリ、茲ニ疑ヲ存ス

以上輸出入ノ計數ハ各國ノ統計表ニ照セハ一致セサルモノアリ、又原油、燈油、製油ノ區別モ統計表ニ據リ之ヲ得ルコト難ク、茲ニ之ヲ細別スルノ材料ナキヲ以テ前記ノ如ク或ハ各別ニ或ハ合算シタリ

英國及佛國ニ於ケル戰前ノ需要額ヲ見ルニ左ノ如シ

第五表

英國石油輸入額 (單位「バーレル」) (千九百十七年ハ同年十二月二十日マテノ總計)

年次	燈油	機械油	殘滓	瓦斯油	揮發油	燃料油	其他	合計
千九百十年	三、三三、一七六	一、三六五、〇〇九	八、七三三	一、三〇六、三三六	一、三三三、一七五	三〇三、六七三	四五、九九九	七、六五二、〇七一
千九百十一年	三、三三、一九五	一、四二一、三四	一、四九二	一、四一七、七五五	一、六五四、〇三三	二五五、四四四	九三、九九八	八、一七四、五〇一
千九百十二年	三、三〇四、八六五	一、五七九、二二三	三九、八三四	一、四三三、三五七	一、九三二、五三八	四三五、九四九	五四、〇九八	八、三四四、五八
千九百十三年	三、七三六、一九〇	一、五五五、五〇	三〇、三四四	一、五五七、一六八	二、四二五、九七四	七四〇、二八七	四九、〇八二	一〇、〇七四、七二九
千九百十四年	三、四六、九九三	一、五四四、六六六	八六、三三三	一、八八二、九四三	二、八六八、〇九九	八四三、四〇	一三七、〇〇一	一〇、七四、二九七
千九百十五年	三、三〇、七六〇	一、六五八、三六七	三〇、二〇四	二、〇三四、四八五	三、三三八、七七	六〇七、八〇〇	一六、七九八	一〇、九九九、四七〇
千九百十六年	三、〇〇〇、〇二二	一、九五、三三六		一、三五九、五五五	三、九〇三、九四八	五五九、三三六	四一、一四五	一〇、七六〇、六〇一
千九百十七年	二、八五、五三三	一、九八六、四三三		七六八、二八九	三、三三九、五五	三〇〇、九三三	二、四九一	九、一八七、九七九

英國石油輸入國別表 (單位「バレル」)

千九百十年

國名	燈油	機械油	殘滓	瓦斯油	揮發油	燃料油	其他	合計
奧洪國		二,二九六	四八					二,三四四
白耳義	五	一三,六〇四			〇,三			一三,六七九
加奈太		二,三七三	六七			二	一〇〇	二,二二三
蘭領印度					五六四,八九〇	二六,八九九	六五	五九一,八四四
獨逸	一六,九五七	六〇,八五五	六六	七七三	六	七,六六七	八一	八六,四三四
和蘭	一四	三三四			一三二,三五六	三五	二三,一六七	一五四,七八六
羅馬尼	三二,三三一	三六,五四七	三,三〇八	一七,三二	八八,九〇〇	一〇五,九八二		五五,一八九
露國	四四〇,〇四三	三三,九四六	三,〇三三		三二,〇三		七	六八七,〇九五
北米合衆國	二,四〇〇,一五四	一,〇四,九六六	一,七五二	一,三五二,四三	四九八,八三〇	一五,〇〇四	二〇,九七三	五,四八二,八九九
其他	八一,五六六	一,三一九			一八,一九九	六四	一九一	一〇一,二五九

千九百十一年

露 國	羅 馬 尼	和 蘭	獨 逸	蘭 領 印 度	加 奈 太	白 耳 義	埃 洪 國	國 名	燈 油	機 械 油	殘 滓	瓦 斯 油	揮 發 油	燃 料 油	其 他	合 計
六四、〇四	四七、三一	七	四八、八九	七					三、三三、一七六	一、三六五、〇一〇	八、七三	一、三七〇、三三五	一、三三三、一七四	三三三、六七五	四、六八七	七、六八八、六八九
二、〇三、二七四	五、二七三	二九三	一六、〇五五		三、三八九	二、三九六	二〇四									
					三〇四											
三七、九四八	一〇五、七八	一八一、九七二		五、六、八一												
一四三	一五九、九五			三、九一〇												
六七	查、八三〇	一六、三七二			九	查										
一、〇三五、五五六	八六六、八四	一九八、六四三	六四、三四四	五、六、七、八	三、七九三	三、三九六	二〇四									

千九百十二年

北米合衆國	二,三六,三九	一,〇四,〇八〇	一,一四三	一,四二七,七六	五四三,三〇八	九一,三九九	一三,一三三	五,三四,八八
其 他	四七	一,三八〇			四九,四四五	二八	二四五	五,一三五
計	三,三三,九四	一,三六,三三	一,四四七	一,四二七,七六	一,六四三,〇三	二五,四三三	九,七九八	八,二九,五四

國 名	燈 油	機 械 油	殘 滓	瓦 斯 油	揮 發 油	燃 料 油	其 他	合 計
白 耳 義	一	二,四九一	一九九		三		六六	一,一六〇
加 奈 太	五九	七七二	二,四九九					三,三八〇
蘭 領 印 度	六	四			九五〇,一七〇	二,八四五		九五,〇三五
獨 逸	七七,四〇	七七,八八	七六一	二九		一,三一九	四三	一五七,四八一
和 蘭	三,三三四	四六一		一,三三三	一四六,五六四		一八,八三八	一七〇,七〇
羅 馬 尼	四七,七四〇	七五,五一	三三,七五四	二,九九	九三,五八九	二二,三三		八六五,九〇〇

千九百十三年

露國	三九七、三四	二〇七、六九	六、〇四		一三〇、四五			七三、五三
北米合衆國	二、二六、五八	一、〇三、五八	五四九六	一、七八、〇三	三八、七八	一〇、一六	二六、三七九	五、七六、四九
其他	五七、八四	一、七三〇	一七一		三三〇、七九	四、八二〇	八、七三	二四、三五
計	三、三五、四六	一、五九、一六四	三九、八三五	一、四三、三五七	一、九三、五七	三八三、五〇五	五四、〇八九	八、九六七、三三

國名	燈油	機械油	殘滓	瓦斯油	揮發油	燃料油	其他	合計
白耳義	六	一七、六〇			一、六一	三	三二	一九、五二
加奈太		四六三	一、七三					二、二八四
蘭領印度	二				一、〇四七、九〇六	九、一〇一		一、〇五七、〇〇九
獨逸	三、六九三	八三、五三	一四	五、〇三	一五、五五	一九	一〇	一〇七、九一七
和蘭		二九九			一八、六五		一四	一八、六四

千九百十四年

墨西哥	三六,九五			二四,七二	三六,四九	三〇,〇九二	一〇五	一五六,三三
羅馬尼	四九,一五	七,四四		二七,三八一	一三六,一六五	二四,三四六		八八〇,四七七
露國	三四,三四	三〇八,八美	二,四六一		三三,四三〇			八六九,三二
北米合衆國	二,八五,九四八	一,二三,〇三元	六,〇三六	一,五〇,〇三三	五六四,四五	一八三,八七〇	三,四八六	六,二七五,三四三
其他	二	四,二二八	一一		二五,六六六	一,四九七	二六,三四七	一四七,六七二
計	三,七四,一九二	一,五五,五二	二〇,三四四	一,五五七,一六八	二,四一五,九七三	七二六,四八八	四九,〇八二	一〇,〇四八,五九八

國名	燈油	機械油	殘滓	瓦斯油	揮發油	燃料油	其他	合計
白耳義		二,八二三	四		九二		三	一三,六八
加奈太		五七	二,一〇七					二,六二四
蘭領印度	二				一,三四,〇七二	一,九九五	四,六七二	一,五六四,七四〇

産出額	頁石		油	
	頁	石	油	噸
石油頁岩一噸ヨリ二十「ガロン」乃至二十五「ガロン」ノ石油ヲ採取スル	千九百十年	三、一八〇、五二〇	噸	
	千九百十一年	三、一六六、八三八	噸	
	千九百十二年	三、二三五、九四二	噸	
	千九百十三年	三、三三三、〇四八	噸	
	計	三四九〇、五四四		
獨逸	六九六	三三、三六六		
和蘭		二九二		四、三三三
墨西哥	二九四、四〇〇	六、二四四		一三〇、五五六
羅馬尼	三三〇、三二二	三、八九二		三五七、八八三
露國	一〇八、九九四	一五七、六七八	一三九	五五、九七八
北米合衆國	二、七六六、〇八二	一、〇五八、八九	六、二〇八	二四三、九二九
其他	九九	六、三〇九	三五	八、五三三
計	三四九〇、五四四	一、五七七、五三六	八六、三六三	一、九八一、七五五
				二、八六八、三二一
				八六三、四〇三
				二七、三〇九
				一〇、九四四、〇〇〇

石油頁岩一噸ヨリ二十「ガロン」乃至二十五「ガロン」ノ石油ヲ採取スル

ヲ得ト云フ

佛國 (單位「バール」)

輸入原油及製油	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
	一、九五四、八〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	二、六三五、二〇〇	六、六一一、三二九

佛國ニ於ケル消費ハ寡少ニ過クルカ如ク殊ニ千九百十三年ノ輸入額ハ其統計ノ出所異ニシテ前年ニ比シ甚タシキ差違アルモ茲ニ正確ナル統計ヲ得サルヲ以テ暫ク之ニ從フ、又同國ニ於ケル石油頁岩ノ近年ニ於ケル產出額ハ其統計ヲ得サリシモ往年ノ產出額ヨリ推算スルニ一年約二十萬噸ナルヘク是ヨリ抽出セラル、石油量ハ約八九萬「バール」トシテ大過ナカルヘシ

此ノ如ク開戰前ニ於テハ英、佛兩國ハ一年約二千萬「バール」ノ石油ヲ消費シ獨、埃兩國ニ於テモ亦殆ント之ト同額ノ石油及其製精油ヲ消費シタルナルヘシ、翻テ開戰前各國ニ於ケル石油供給如何ヲ見ルニ埃國

ニ於テ輸出スルノミ、其他ノ諸國ハ僅カニ其消費額ノ十分一又ハ其以下ヲ產出スルノミニシテ悉ク石油輸入國タリ、獨リ露國ハ多量ノ石油ヲ產出シ輸出ノ状態ニアリタリ

## (二) 開戦後

石油ハ平時ニ於テ必須ノ原動力、燃料、塗料等トシテ多量ニ使用セラレ戦時ニ於テハ更ニ平時ニ於ケルヨリ多量ノ需要アルヘキナリ、開戦前各約二千萬「バレル」ノ石油及其製精油ヲ消費シタル英、佛ト獨、澳ノ交戦國ハ塙國ヲ除ケハ皆石油輸入國ニシテ石油ノ供給ニ關シ慎重ニ考慮スルトコロアリ、蓋シ石油ノ產出國ハ當初交戦國トシテハ露國及塙國アリシノミ、露國ハ之ニヨリテ其需要ヲ充タスヲ得ヘキモ獨、澳ハ瓦利亞西亞油田ノ六七百萬「バレル」獨逸ノ百萬「バレル」ノ石油ヲ以テシテハ以テ其需要ヲ充タスニ足ラス、而シテ海上ハ英、佛ニヨリ封鎖セラレタルヲ以テ羅馬尼油田ニ著眼セシコト疑フヘカラス、英、佛ハ海上ニシテ安全ナルヲ得ハ以テ北米合衆國、墨西哥、蘭領印度、英領印度等ヨリ

容易ニ石油ヲ輸入シ得ヘキナリ

開戦後石油ノ需要ノ増加ト共ニ産出額ハ著シク増加シ殊ニ北米合衆國ノ産出額ニ於テ著シク、墨西哥之ニ次キ、其他ノ諸國ハ著シカラス、獨リ瓦利西亞ハ露軍ト獨、埃軍トノ交戦地帯ニアリテ産出額減少シ、羅馬尼油田亦海上ノ封鎖ノ爲メ其産出額減少セリ

開戦後ニ於ケル各交戦國ノ石油ノ需要ニ關シテハ據ルヘキノ資料ニ乏シキモ、英國ノ輸入ハ稍正確ニシテ之ヲ知ルコトヲ得タリ、即チ第六表ニ示スカ如シ、即チ開戦後羅馬尼、露國ヨリノ輸入杜絶シタルニ反シ北米合衆國ヨリノ輸入激増シ、蘭領印度等ノ輸入増加ト相待テ開戦前ニ於ケルト殆ント同量ノ輸入アリ、此外第六表ニ示スカ如ク石油頁岩ノ産出額アリテ二百萬「バール」内外ノ石油ヲ抽出スルコトヲ得タリ

第六表 英國石油輸入表 (單位「バール」)

千九百十四年

國名	燈油	機械油	殘滓	瓦斯油	揮發油	燃料油	其他	合計
白耳義		二、八二三	四八		七一九		三三	一三、六八三
加奈太		五〇七	二、一〇九					二、六二四
蘭領印度	二				一、三四、〇七	一、九九五	四、六七三	一、二八四、七四〇
獨逸	六九六	三、〇五六					一七七	三、九〇九
和蘭		二九一		四、三三三	二〇、五五六	七	三三六	一、二五、五五
墨西哥	二九四、〇〇〇	六、二四			五七、九六	三五七、八八三	二二、六九一	七四〇、〇四八
羅馬尼	三三〇、三二一		三、八九一		一五、六七六	五、九一八		一四一、七九八
露國	一〇八、九四	一、五、六七六	二二九		二四、九一九		一五	五〇五、六五五
北米合衆國	二、七六、〇八二	一、三、五、八九	六、三〇八	一、九七、三八七	九七、〇六〇	四四六、三八八	一七、五〇	七、五五、〇七四
其他	九九	六、三九		三五	八、五三三	二二二	四三、八八六	一三一、九六四

千九百十五年

計	三、四九〇、五四	一、五七、五五六	八六、三八三	一、九九一、七九五	三、八六八、三二	八六、四〇三	二七、三〇九	一〇、九四四、〇〇〇
---	----------	----------	--------	-----------	----------	--------	--------	------------

國名	燈油	機械油	殘滓	瓦斯油	揮發油	燃料油	其他	合計
加奈太	五三五	一、九四四						二、四六九
蘭領印度					一、六五、五八九	四九		一、六五、六三八
和蘭		一七			三、一九三		四	三、二〇四
墨西哥	三七四、二二	五三、七五〇	一二四	八七、四〇〇	二二五、三七三	三三九、四九		九六、七四六
露國		五						五
北米合衆國	二、九七五、九〇四	一、六〇八、〇四四	二八、六五	二、〇〇〇、二二	一、四九、七三〇	三八九、二〇	一六、〇三七	八、四七七、六二二
其他	一七、三三	四、七九			一六、二七六	二、三三六	七四	三〇六、三〇七
計	三、三六七、二四七	一、六六六、〇五〇	三〇、八五	二、〇九七、三六一	三、四八四、一六〇	六四九、七三四		一一、三三二、〇〇〇

千九百十六年

國名	燈油	機械油	殘滓	瓦斯油	揮發油	燃料油	其他	合計
加奈太		四七〇						四七〇
蘭領印度	三			二、六一	一、壹八、九六	六、六五	三	一、七八、一五四
墨西哥	二五、六九	六五、九一		一一、三三	二四六、一〇四	二四九、三九		九六七、三六四
北米合衆國	二、七六、三六二	一、八四七、六五		一、〇四五、九五	一、八七四、〇四三	二八三、〇六七	三六、三九	八、〇三、二七四
其他	一〇	一、二四六			四五、〇〇六	二九一	四、八三五	五、三三八
計	三、〇三〇、〇三二	一、九五、三七八		一、三六〇、九四四	三、九三三、九四九	五五九、二〇二	四一、四四五	一〇、七六〇、五五〇

石油頁岩產出額 (單位噸)

千九百十四年	三、三二七、一四四噸	千九百十六年	三、五〇〇、〇〇〇噸
千九百十五年	三、〇四九、六三二		

千九百十六年ニ於ケル石油頁岩ノ產出額ハ三百五十萬噸ニシテ是ヨリ採取セル石油及其製出物ハ左ノ如シ

第七表 (單位「バールレル」)

原 油	一、九二〇、〇〇〇	機 械 油	二六二、〇〇〇
揮 發 油	一四、〇〇〇	「パ ラ フ ヰ ン」 蠟	二七、五〇〇噸
「ナ フ サ」	一一五、〇〇〇	該 炭	八四、〇〇〇噸
燈 油	五二四、〇〇〇	硫 酸「ア ム モ ニア」	五九、四〇〇噸
瓦斯油及燃料油	三九五、〇〇〇		

頁岩中ニアル石油ノ量ハ平均一噸ニ付二十三「ガロン」、硫酸「アムモニア」三十八「ポンド」ヲリト云フ

此ノ如ク英國ニ於テハ開戰前後ニ於テ千萬「バールレル」ノ原油及其製精油ヲ輸入シ自國ニ產出スル石油約二百萬「バールレル」ヲ加ヘテ同國一年

ノ消費額ハ千萬「バーレル」乃至千二百萬「バーレル」ナルヘシ  
佛國ニ於ケル消費額ハ統計ノ據ルヘキモノナク千九百十四年ニハ約  
三百五十一萬二千七百十「バーレル」、千九百十五年ニハ四百五十七萬千  
六百三「バーレル」、千九百十六年ニハ六百六十萬六百六十四「バーレル」ヲ  
輸入シタリト云ヒ、自國ニ産スル石油頁岩ヨリノ産出額ハ十萬噸ニ達  
セサルヘシ、隨テ其總計ハ七百萬「バーレル」ニ達セサルモ同國現時ノ狀  
態ニ於テハ此數量ハ寡少ニ失スルカ如ク、以上ノ輸入中ニハ或ハ揮發  
油ヲ含有セサルヤノ疑アリ、果シテ然ラハ其輸入ハ百萬「バーレル」以上  
或ハ二三百萬「バーレル」ニ達スヘク、「ペランジャー」Beranger 氏ノ如キハ一  
年五百餘萬「バーレル」ノ揮發油ヲ要スヘシト唱フ  
開戦後各交戰國ハ物資ノ節約ニ努メ、殊ニ石油及其製精油ハ必須ノ軍  
需品ナルト、遠ク之ヲ海外ニ仰カサルヘカラサルトニヨリ極力之カ使  
用ヲ制限シ其節約ニ努ムト雖モ尙上記ノ如ク英、佛兩國ニ於テ千五百  
萬「バーレル」乃至二千萬「バーレル」ヲ消費ス、其量實ニ莫大ナリト云フヘ

キナリ

獨、埃ニ於ケル戰時石油ノ需要額ハ統計ノ以テ據ルヘキナク之ヲ知ルニ由ナキモ英、佛ニ於ケル消費額及開戰前ニ於ケル同國ノ消費額ヨリ之ヲ推測スルニ如何ニ之ヲ節約スルモ年額千萬「バーレル」ヲ下ルコトナカルヘク、英、佛ト同シク千五百萬「バーレル」乃至二千萬「バーレル」ヲ要スヘシ、飜テ同國ニ於ケル石油ノ供給ヲ見ルニ獨逸ニ約百萬「バーレル」ノ產出額アリ、埃國ニハ瓦利亞油田アリ、其最盛時ノ千九百九年ニハ年額千四百萬「バーレル」ヲ產セシモ開戰前ノ千九百十三年ニハ七百餘萬「バーレル」ニ減退シ尙減退ノ傾向ニアリタリ、想フニ兩國ノ產油額ノミヲ以テシテハ戰時ノ消費額ニ充タサルヘシ、加之瓦利亞油田ハ千九百十四五年ニ於テ交戰地域ト化シ軍隊ニ蹂躪セラレテ其產油額著シク減少スルニ至レリ、蓋シ獨、埃ハ海上ヨリ封鎖セラレテ海外ヨリノ輸入ハ全ク杜絶シ、隨テ瓦利亞油田ハ最モ重要ナルニ至レルト共ニ隣國羅馬尼ノ豊富ナル產油ハ獨、埃ノ注視シタルトコロニシテ其輸入

ヲ豫期シタルナルヘク、而モ石油ノ供給ノ不足シテ輸入ノ意ノ如クナ  
ラサルヤ遂ニ羅馬尼ノ參戰トナレリ

開戰前聯合國ニハ露國ニ豐富ナル油田アリ、運搬ニ困難ナル事情アリ  
ト雖モ英、佛、伊ハ北米合衆國、墨西哥、蘭領印度等ヨリ輸入スルヲ得ルニ  
反シ、獨、埃同盟國ハ海上ヲ封鎖セラレ其供給ハ獨リ之ヲ瓦利西亞及羅  
馬尼油田ニ仰クノ外ナク、同盟國ノ運命ハ懸リテ此兩油田ニアリ、其戰  
局ニ最モ重要ナル關係ヲ有スルコト茲ニ叙說ヲ須キサルナリ

## 一一 交戰地域ニ於ケル油田

歐洲ニ於ケル油田ハ「バクト」ヲ第一トシ、羅馬尼之ニ次キ、瓦利西亞第三  
位ニアリ、此外獨逸ニ約百萬「バレル」ノ產出アル油田アリ、伊太利ニ約  
四萬「バレル」ノ產出アル小油田アリ、英國ハ石油頁岩ヨリ石油約二百  
萬「バレル」ヲ採取シ、佛蘭西モ亦約八萬「バレル」ヲ採油ス、而シテ交戰  
國ノ境界附近ニ賦存セル重要ナル油田ヲ瓦利西亞及羅馬尼油田トシ、  
「バクト」油田ハ遙カニ黑海ノ彼岸ニアリテ交戰地域ヲ距ルコト遠シ

## 瓦利西亞及羅馬尼油田 (第一圖參照)

瓦利西亞及羅馬尼油田ニ關シテハ報告第六十九號ニ於テ之ヲ記述セルヲ以テ茲ニハ單ニ其概要ヲ記述スルニ止メン

塊太利ノ北東ヨリ羅馬尼ノ西部ニ互レル一帯ノ地ハ歐羅巴ニ於ケル大油田ニシテ塊太利ノ北東ニアルモノハ瓦利西亞油田、羅馬尼ノ西部ニアルモノハ羅馬尼油田ナリトス

### 一 瓦利西亞油田

瓦利西亞油田ハ延長約二百二十哩、幅四十哩乃至六十哩ニ互リ北西ヨリ南東ニ走リテ羅馬尼ニ連ナレリ、石油ハ主ニ始新期層乃至中新期層ニ胚胎シ千五百六年ノ交發見セラレ、爾來多少採油セラレタルモ其業固ヨリ微々タリ、千八百五十四年燈油ハ商品トシテ始メテ「グヰエナ」市ニ於テ販賣セラレ、千八百八十年代ヨリ漸次機械鑿井ヲ試ムルニ至レルモ尙手掘ニヨリ鑿井スルモノ多ク、西部ノ「クロスノ」、「グルリス」等ノ油田ノ發達ニ次テ東部「コロメア」附近ノ「スロボタ、ラングルスカ」地方ノ油田

開發セラレ、中部ニ於ケル「シヨードニカ」油田ノ開發ヨリ千九百年「ボリス  
ロー」油田ノ噴油トナリ產出額激増スルニ至レリ、千九百四五年ニハ「ボ  
リスロー」油田ハ三百餘萬「バーレル」ヲ產出シ、爾來次第ニ衰退ニ赴キタ  
ルニ反シ其隣接セル「タスタノウヰス」油田ノ勃興トナリ、千九百九年ニハ  
千二百餘萬「バーレル」ニ激増シテ最高額ヲ示シ、同國總產油額千四百餘  
萬「バーレル」ノ八割以上ヲ產出スルニ至リ、爲メニ各地ニ散在セル小油  
田ハ殆ント忘却セラレテ油業ハ一ニ本油田ニ集中シタリ、然ルニ產油  
額ノ激増ノ爲メ石油價格暴落シ、油井内ニ鹽水浸入シ產油額著シク減  
少スルニ至レリ、是ニ於テ政府ハ之カ恢復ヲ期シ且ツ各地ニ散在セル  
油田ノ開發ヲ計レルモ未タ多ク其成果ヲ見ルニ至ラスシテ開戰前ノ  
千九百十三年ニハ總產出額七百八十一萬「バーレル」ニ減退シ、「ボリスロ  
ー」油田ノ產出額百四十八餘萬「バーレル」、「タスタノウヰス」油田ノ產出額  
四百九十八餘萬「バーレル」ナリ、其他ノ油田ノ產出額ノ稍大ナリシハ「シ  
ヨードニカ」(千九百十三年ノ產出額二十一餘萬「バーレル」)、「ポトク」(千九百

十三年ノ產出額二十六餘萬「バレル」等ナリトス  
 千九百十年以降ノ產油額左ノ如シ

第八表 (單位バレル)

年次	總額	「ボリスロ」	「タスタノウ」
千九百十年	一二、六七三、六八八	一、五四〇、四五八	一〇、〇五三、一三〇
千九百十一年	一〇、五一九、二七〇	一、四〇九、一六八	七、九四二、九三七
千九百十二年	八、五三五、一七四	一、二二五、八九五	六、一五七、八〇四
千九百十三年	七、八一八、一三〇	一、四八四、七三五	四、九八七、四一五

瓦利西亞ノ產油額ハ埃、洪國ノ需要ニ對シテ餘リアルモ、油田ニ近ク海港ナキヲ以テ輸出ニ甚タシキ不便アリ、隨テ千九百八九年ノ如キ產出額激増ノ結果貯油増加シ價格暴落シタリ、即チ政府ハ多量ノ原油ヲ買收シ或ハ大製油所ヲ建設シ之カ調節ヲ計リ以テ斯業ヲ保護シタリ、而

シテ千九百十三年ニハ七百八十一餘萬「バーレル」ニ對シテ二百二十五餘萬「バーレル」ヲ輸出シ同年末ニ於ケル貯油五百七十餘萬「バーレル」ニ達セリ、蓋シ同國ニ於ケル斯業ノ發達ハ白、佛、英、獨ノ資本ニ待ツモノ多ク、殊ニ戰前ノ千九百十三年ニハ英國ノ資本ハ約其六割ヲ占ムルニ至リ英國ノ同國油田ニ對スル利害ノ關係ハ甚タ大ナルモノアリタリ現戰局ノ開始ト共ニ露軍ハ直ニ瓦利西亞ニ侵入シ九月ニハ最モ盛大ナル「ボリスロー」、「タスタノウ」油田ヲ占領シ、爾來一箇月二十萬「バーレル」乃至三十萬「バーレル」ノ原油ヲ採取セルモ、翌千九百十五年五月露軍ハ敗レテ本油田ハ復ヒ獨、塙軍ノ手ニ歸セリ、露軍ノ退却スルヤ貯油ニ放火シ油井ヲ破壊シタルモ尙三百餘萬「バーレル」ノ貯油ハ敵手ニ入り「タスタノウ」油田ニ於ケル油井ハ殆ント之ヲ破壊セルモ「ボリスロー」油田ノ油井ハ一モ之ヲ破壊スルニ至ラス獨、塙軍ノ本油田ヲ恢復スルヤ極力之カ復舊ヲ計リ、千九百十五年下半年期ニハ一箇月四十五萬「バーレル」内外ノ原油ヲ産スルニ至リ、爾來四十

萬「バーレル」乃至五十萬「バーレル」ノ石油ヲ產出シ、或ハ捕虜中ノ鑿井者ヲ本油田地ニ送り原油產出ノ増加ヲ計リ、千九百十七年ニハ瓦利西亞油田全部ヲ恢復シタルモ其產出額ハ一箇月五六十萬「バーレル」ヲ出テサルヘシ、千九百十四年以降ノ產出額ハ第二表ニ示スカ如シ

## 二 羅馬尼油田

羅馬尼油田ハ瓦利西亞油田ニ連續シ其延長約四百哩、幅十五哩乃至二十哩ニ達シ、石油ハ主ニ中新期層及鮮新期層中ニ胚胎ス

千八百五十六年後石油業ハ次第ニ發達スルニ至リシモ鑿井ハ尙手握ニ據リ其產油量固ヨリ僅少ナリ、千八百八十年鑿井機械輸入セラレタルモ千八百九十九年マテハ產出額並ニ輸出額大ナラスシテ同年百四十餘萬「バーレル」ヲ產出シタリ

千九百年ヨリ政府ハ鐵道運搬ノ促進ヲ計リ黑海沿岸ノ「コンスタンザ」ノ海港ニ於ケル設備ヲ改良シ「ブレラ」、「セルノヴォダ」、「ギウルギウ」等「ダニユ」ブ「河沿岸ノ河港ヲ開キ、鐵管敷設ヲ企テ大ニ石油業ノ保護獎勵ニ

努メタルモ、石油價格ノ下落、運輸交通不便等ノ爲メ當初ハ意ノ如ク發達スルニ至ラサリシモ、五六年後ニハ產油額ハ五六百萬「バール」ニ激増シ、千九百七年ニハ八百餘萬「バール」、千九百十一年ニハ千萬「バール」ヲ超過スルコト實ニ百十餘萬「バール」ニ達シ、開戰前ノ千九百十三年ニハ千三百五十五餘萬「バール」ニ増加スルニ至リシモ其資本ハ主ニ之ヲ獨、米、佛、英、白、和等ニ仰ケリ、其出資額ハ獨逸ハ百分中二十六、北米合衆國十八、佛蘭西十六、和蘭十、英國六ノ割合ニシテ自國ニ於ケル資本額ハ僅少ナリトス

羅馬尼ノ石油業ハ殆ント「ブラホヴァ」州ノ占ムルトコロニシテ「ブレースチ」、「カムピナ」等ハ油田ノ中心地タリ、實ニ主ナル製油所ハ此兩市附近ニ存在ス、而シテ當初多量ニ產出シタルハ「カムピナ」油田ナリシモ千九百五年「バステナリ」油田大ニ發達シ二百九十四餘萬「バール」ヲ產出シテ第一位トナリ「カムピナ」油田ノ產油額ハ六十七餘萬「バール」ニシテ遙カニ之ニ及ハス、翌千九百六年ニハ「モレニ」油田大ニ開發セラレテ百

十六餘萬「バーレル」ヲ產出シ「バステナリ」油田ハ約三百六十七餘萬「バーレル」ヲ產出シテ最高ニ達シ爾來次第ニ減退ニ傾ケルニ反シ、「モレニ」油田ノ發達ハ益顯著ニシテ千九百十三年ニハ七百餘萬「バーレル」ヲ產出シテ總產出額ノ過半ヲ占ムルニ至レリ、「バステナリ」油田ハ其隣接セル「ボルデニ」油田ノ開發ニヨリテ千九百十三年ニハ合計二百十八餘萬「バーレル」ヲ產シテ尙第二位ニ居リ、「カンピナ」油田ハ其隣接セル「ポイアナ」油田ト共ニ百七十五萬「バーレル」ヲ產出シテ第三位ニ下リ、其他ノ地方ニ於ケル產出額ハ遙カニ之ニ及ハス、千九百十年以降ノ產出額左ノ如シ

第九表 (單位「バーレル」)

年次	總額	「モレニ」	「カムピナ、ポイアナ」	「バステナリ、ボルデニ」
千九百十年	九、七二二、九五八	三、一五二、六三五	二、三九七、〇一七	二、二八八、三五四
千九百十一年	一一、一〇一、八七八	四、二〇七、九七六	二、二五〇、七一四	二、二四二、九八五

千九百十二年	一一、九九一、九一三	六、三一三、五四六	二、一二三、九六二	二、一六八、七二七
千九百十三年	一三、五五四、七六八	七、〇六〇、二四二	一、七五二、三一	二、一八二、九八五
千九百十四年	一一、八二六、五七九	六、四四二、九三〇	一、二五四、七四八	二、一一三、七六七

總產出額ノ第二表ニ於ケルト異ナルハ統計出所ノ異ナルニヨル、蓋シ其差ハ僅少ナリトス

千九百十五年	一一、〇九九、二二五	四、四一三、五五三	八六七、五二四	二、〇五六、五九二	一、二八〇、二五一
--------	------------	-----------	---------	-----------	-----------

羅馬尼ノ石油ハ過半ハ之ヲ輸出シ千九百十三年ニハ千三百五十五餘萬「バーレル」ノ產出額ニ對シテ七百四十五餘萬「バーレル」ヲ輸出シ、同年末ニ二百十餘萬「バーレル」ノ貯油アリ、而シテ輸出ハ主ニ「コンスタンザ」港ヨリシ其最大ナルハ英國ニシテ千九百十三年ニハ百六十七餘萬「バーレル」ヲ輸入シ佛國及埃及之ニ次キ百餘萬「バーレル」ヲ輸入シ、埃、洪國及獨逸ハ其半ニ達セス

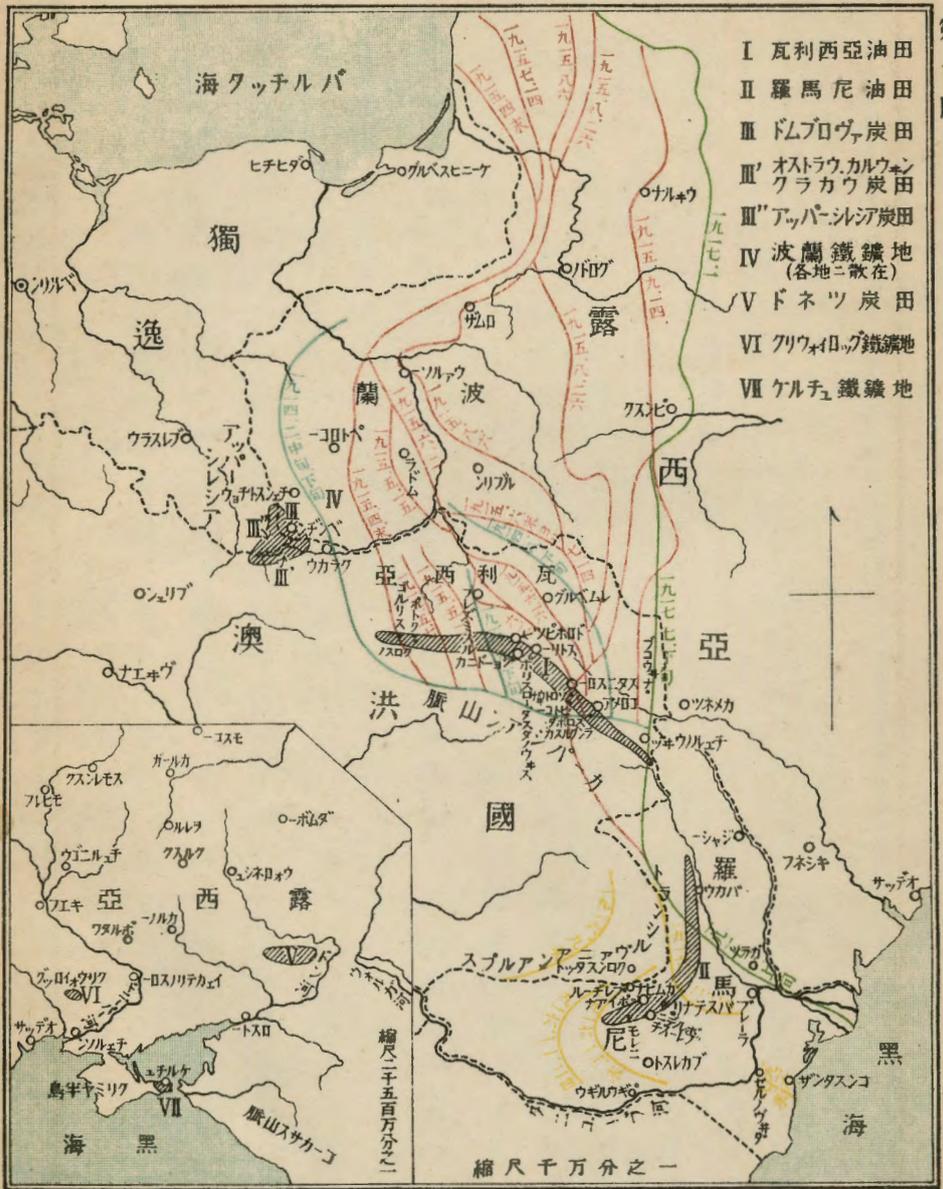
千九百十四年下半期ニ於ケル現戰爭開始ト共ニ「ダーダネルス」海峽ハ封鎖セラレテ海上ヨリノ輸出ハ全ク杜絶シ、陸路及「ダニユール」河ニヨリ獨、塊ニ輸出シタリシモ石油及其製精品ハ漸次戰時禁制品トシテ輸出ヲ制限又ハ禁止セラル、ニ至リ其量ハ減少シタリ、而シテ輸出ノ激減ニヨリ貯油増加シタルヲ以テ之カ調節ヲ計ルニ至レリ、而モ產油額ハ依然トシテ減少セス、即チ千九百十四年ニハ千二百八十二餘萬「バレル」千九百十五年ニハ約千二百十萬「バレル」ヲ產出シ千九百十六年ニ入リテモ尙略同一ノ產出額ヲ維持シタリ、然ルニ千九百十四年ニ於ケル輸出額ハ四百七十餘萬「バレル」ニシテ千九百十五年ニ於ケル輸出額ハ三百八餘萬「バレル」ナリ、而シテ國內ニ於ケル消費額ハ稍増加シタルモ產出額ニ對シテハ其量僅少ナリ、隨テ貯油ハ著シク増加シ製油所ニ於ケル貯油量ノミニテ五百七十五餘萬「バレル」ニ達シ、此外海港、河港及油田ニ於ケル貯油ノ大ナルモノアリテ之カ處理ニ困難ヲ生スルニ至レリ、千九百十六年ニ入リテモ產油額ハ依然トシテ減少スルコ

トナク、同年八月同國ノ參戰スルニ至レル際ニハ貯油ノ量ハ大ニ増加シタルナルヘシ

千九百十六年八月羅馬尼ハ參戰後直ニ洪牙利ニ侵入シタルモ十月遂ニ敗レ十一月下旬ニ於テ同國ノ油田ハ獨、埃軍ノ手ニ歸セリ、其退却スルヤ英軍ハ貯油ニ放火シ油井ヲ破壊シタリ、獨、埃ニ於テハ非常ニ之カ復舊ニ困難シタルモ千九百十七年二月ヨリ漸次ニ恢復ノ域ニ進ミ同年ニハ遂ニ千萬「バーレル」内外ヲ產出スルニ至レリ

### 三 瓦利西亞及羅馬尼油田ノ爭奪(第一圖參照)

千九百十四年八月下旬獨、埃軍ハ露領波蘭ニ侵入シテ「ドムブロヴァ」炭田ヲ占領シタルニ反シ、露軍ハ瓦利西亞ニ入り九月上旬ニハ遂ニ「レムベルグ」ヲ占領シ、勢ニ乘シテ進撃シ同下旬ニハ「ブレズミスル」ニ入り、茲ニ同國石油ノ大部ヲ產出スル「タスタノウキス」、「ポリスロ」油田ハ全ク露軍ノ手ニ歸シ「ドロホビツ」、「ストリー」ノ製油所亦其有ニ歸セリ、露軍ハ更ニ勝ニ乘シテ十一月中旬、下旬ニ互リテ「クラカウ」ノ附近ニ達シ、又殆ント



- I 瓦利西亞油田
- II 羅馬尼油田
- III ドムプロヴ炭田
- III' オストラウ、カルウエン、クラカウ炭田
- IV 波蘭鐵鑛地 (各地ニ散在)
- V ドネツ炭田
- VI クリウイロフ鐵鑛地
- VII ケルチ鐵鑛地

縮尺千五百万分之二

縮尺千万分之二

波蘭ノ地ヲ恢復スルニ至リシモ、「ドムブロヴァ」炭田ハ遂ニ之ヲ恢復スルニ至ラスシテ復ヒ獨、埃軍ノ爲メニ擊退セラレ、十二月下旬ニハ稍後退シ翌千九百十五年四月末ニ至ルマテ此線ヲ維持シ、獨、埃ハ爲メニ石油ノ供給ヲ絶タレタリ、此状態ニシテ永續スルニ於テハ獨、埃軍ハ其貯油ト獨逸ニ産出スル百萬「バーレル」内外ノ産油額ニ待ツノミニシテ前述ノ如ク之ニヨリ其需要ヲ充タスコト能ハサルヤ論ナク、此必須ノ軍需品ニシテ缺乏センカ其結果恐ルヘキモノアリテ獨、埃ノ堪フヘキニアラサルナリ、五月ニ入りテ果然獨、埃軍ノ攻撃急トナリ露軍ハ遂ニ退却ノ已ムナキニ至リ、六月二日ニハ「ブレスマスル」陥リ「ドロホビツ」スリト「亦敵手ニ落チテ」タスタノウ<sup>#</sup>ス、「ボリスロー」油田ノ再ヒ敵手ニ入りシノミナラス「ビトコー」、「ソロトウ<sup>#</sup>ナ」油田モ亦敵手ニ委スルノ已ムナキニ至リ、同國ノ油田ハ遂ニ獨、埃軍ニ恢復セラル、ニ至リタルハ實ニ遺憾トスルトコロナリ、爾來露軍振ハス、十月末ニハ著シク後退シタリ、其後「スタニスロー」、「ビトコー」、「ソロトウ<sup>#</sup>ナ」等ノ地ヲ恢復シ「ブコウ<sup>#</sup>ナ」地方亦

之ヲ占領スルニ至レルモ主要油田ハ全ク獨、埃軍ノ手中ニ歸シ以テ千九百十六年ヲ終レリ、千九百十七年ニハ露國ニ革命アリ、七月下旬ニハ瓦利西亞ノ全部、「ブコウ<sup>ナ</sup>」復タ敵手ニ入り露軍ハ次第ニ後退シ遂ニ獨、露ノ單獨講和トナリ、獨、埃軍ハ次第ニ露領内ニ勢力ヲ有スルニ至レリ」羅馬尼ハ千九百十六年八月二十七日參戰シタリ、當初ハ露、羅軍甚タ優勢ニシテ境ヲ越エテ洪國ノ「クロンスタト」等ノ地ヲ略シ、九月末ニハ深ク「トランシルヴァニア」ニ侵入シタリ、獨、埃ニ於テハ開戰後動モスレハ缺乏ヲ致ス石油ノ供給ヲ羅馬尼ニ仰キタリシモ其輸入意ノ如クナラス、特ニ同國ヨリ輸出禁止ノ石油製品アリ、獨、埃軍ノ羅馬尼油田ニ著目スル一日ノ故ニアラス、其參戰後獨逸ヘノ輸出全ク杜絶シ獨、埃ニ於ケル石油ノ慾望ハ益切ナルモノアリ、果然十月ニハ獨、埃軍ハ攻勢ニ轉シ爾來羅馬尼軍ノ戰況次第ニ振ハス、十一月二十四日ニハ獨、埃軍ハ西方ノ地ヲ略シ「トランシルヴァニア」ヨリハ既ニ國境ノ「ブレヂール」ヲ越エテ羅馬ニ侵入シ其勢猛烈ニシテ直チニ油田地ニ殺到シ、十一月末ニハ「バ

ステニ、「モレニ」等ノ最重要ナル油田地ハ敵手ニ入り、次テ「カムピナ」油田陥リ、十二月六日ニハ首府「ブカレスト」陥リ、製油ノ中心ナル「ブレースチ」モ亦敵手ニ委スルノ已ムヲ得サルニ至リ、十二月二十日ニ「ブゼウ」亦敵手ニ入レリ、黒海沿岸ニ於テハ九月末ニ既ニ羅馬尼ニ侵入シタル獨、塊軍ハ十月二十二日ニ「コンスタンザ」ヲ陥レ、千九百十六年末ニハ獨、塊軍ハ「ダニユ」ブ「河口ヨリ」ガ「ラツ」Gulutz、「カスメシ」Kasimovヲ通スル線以南ノ地ヲ占領シテ貯油ヲ其手ニ收メ、羅馬尼ハ僅カニ三分一ノ地域ヲ殘セルノミニシテ白耳義ト殆ント同一ノ運命ニ遭遇スルニ至レリ此ノ如ク獨、塊ハ急速ニ羅馬尼油田、製油所及輸出港ニ襲來シ其貯油ヲ其手ニ收ムルト共ニ油井ノ破壊セラレサランコトヲ努メタルモ英軍ノ敏捷ナル能ク貯油ニ放火シ油井ノ破壊ニ成功シタリ、然レトモ貯油ノ一部ハ敵手ニ入りシナルヘク、油井モ努力ノ結果數月ニシテ次第ニ恢復スルニ至レリ

#### 四 開戰前後ニ於ケル石油供給ノ變動

開戰前ニ於テハ獨、埃及英、佛ノ各交戰國ハ一年千五百萬「バーレル」乃至二千萬「バーレル」ノ石油ヲ消費シ主ニ之ヲ北米合衆國ニ仰キ、其他露國、墨西哥、蘭領印度、英領印度等ヨリ之ヲ輸入シ、埃國ヲ除ケハ皆輸入國ニシテ共ニ千萬「バーレル」以上ハ之ヲ外國ニ仰カサルヘカラサルノ状態ニアリタリ、而モ獨、埃ハ自國ニ七八百萬「バーレル」ヲ産シ英、佛ハ二百萬「バーレル」内外ヲ産スルノミニシテ大ニ獨、埃ニ劣ルモノアリタリ、而シテ露國ハ自國ニ豊富ナル油田ヲ有ス、蓋シ開戰前夙ニ見ルトコロアリ獨逸ハ既ニ此必須ノ石油ヲ多量ニ貯藏シタリト信スヘキ理由アリ開戰後各交戰國ニ於ケル石油ノ供給ハ一變シ獨、埃ハ海上ノ交通ヲ絶タレ輸入全ク杜絶シタルヲ以テ直ニ隣國和蘭ニ於ケル貯油ヲ買收シ、瓦利西亞油田ハ最も重要ナル地域ト變セリ、是ニ於テ露國ハ直ニ同國ニ侵入シテ此重要ナル油田ヲ占領シ、兩交戰國ニ於ケル石油ノ供給ニ於テ其均衡ヲ破リ大ニ意ヲ強ウスルモノアリタリ、蓋シ一年千五百萬「バーレル」以上ノ多量ノ石油ハ之ヲ貯油ニ待ツコト能ハサルヤ論ナク

果然半歲ニシテ同油田ハ獨、埃軍ノ爲メニ恢復セラレタリ、而シテ英、佛ハ航海ノ自由ヲ有スルヲ以テ戰前ト同シク北米合衆國、墨西哥、蘭領印度、英領印度等ヨリ石油ヲ輸入シ得ルモ露國及羅馬尼ヨリハ「ダーダネルス」海峡封鎖ノ爲メ輸入杜絶シタリ、而モ北米合衆國ヨリノ輸入額増加シ總輸入額ハ戰前ト畧同一ナリトス、之ニ反シ獨、埃ノ供給ハ之ヲ唯一ノ瓦利西亞油田ニ仰ケリ、其產出額ハ統計正確ナラスシテ明カナラサルモ千九百十五年上半期ハ露軍ノ手中ニアリ、下半期ニハ復舊ノ爲メ多量ノ產出ハ之ヲ望ムヘカラスシテ不足ヲ感シタルヘク、唯獨、埃軍ノ囑望セルハ羅馬尼ヨリノ輸入ナリトス、然ルニ同國ハ中立ヲ守リ或ハ輸入ヲ制限シ或ハ之ヲ禁止シ同國ニハ多大ノ貯油アリシニ關セス獨、埃ハ自由ニ之ヲ輸入スルコトヲ得ス、想フニ獨、埃ニハ多大ノ貯油アリシナルヘシト雖モ開戰後約二年ヲ經過セル千九百十六年ノ下半期ニ入りテハ貯油ハ減少シ瓦利西亞油田ノ產油額亦大ニ増加セス、羅馬ニヨリノ輸入意ノ如クナラス、此狀況ニシテ持續センカ獨、埃軍ハ石油

ノ缺乏ノ爲メ戰場ニ於ケル活動ニ支障ヲ來スノ憂ナキ能ハサルナリ、隨テ獨、埃ハ極力羅馬尼ニ對シテ種々ノ手段ヲ弄シタルコトハ之ヲ察スルニ難カラス、然ルニ羅馬尼ハ石油輸出ニ對シ中立ヲ嚴守セルノミナラス同年八月遂ニ聯合國ニ加ハリ參戰スルニ至リ直ニ攻撃ヲ開始シタルニ、獨、埃軍ハ退却シテ洪牙利ノ一部ハ羅軍ノ爲メニ占領セラレタリ、獨、埃ハ前述ノ如ク羅馬尼ノ石油ニ著眼スルコト久シク其之ヲ占領スルト否トハ勝敗ノ岐ル、トコロナルヲ以テ豈ニ徒ニ自滅ヲ待ツモノナランヤ、果然十月ニハ攻勢ニ轉シ下旬油田地ニ殺到シ一舉ニシテ之ヲ占領シ貯油モ一部ハ之ヲ占領シタルナルヘシ、而シテ此等油田ノ油井ハ甚タシク破壞セラレタルモ極力之カ復舊ヲ計リ千九百十七年ニハ約千萬「バーレル」ノ石油ヲ採取シタリト云フ

此ノ如ク千九百十七年ニ於テハ獨、埃軍ハ瓦利西亞及羅馬尼油田ヲ領有シ其結果一年約二千萬「バーレル」ノ石油ヲ採取スルコトヲ得稍潤澤ニ之ヲ使用スルコトヲ得ルニ至レリ、之ニ反シ英、佛、伊ハ海上ヨリ自由

ニ石油ヲ輸入シ得ト雖モ運搬材料ノ激増ノ爲メ殊ニ北米合衆國ノ聯合國ニ加ハリ參戰以來軍人及之ニ要スル必需品等ノ輸送等ノ爲メ船舶ニ不足ヲ致シ及潛航艇ノ危險アリ、固ヨリ石油ニ於テ敢テ不足スルコトナカルヘシト雖モ獨、埃ニ於テ其占領地ヨリ採油スルモノト其難易同日ニ論スヘカラサルモノアリ、露國ニ於ケル當初ノ攻勢ト羅馬尼ノ參戰ニシテ其功ヲ奏シ此必須ノ石油ヲ獨、埃軍ニ供給スルコトナカリセハ獨、埃軍ハ戰場ニ於テ長ク其暴威ヲ振フコト能ハサルヘク、戰局ノ前途亦知ルヘキモノアリシナランニ、遺憾極マリナシ

## 第二章 石 炭 (地質調査所報告第五十三號參照)

### 一 開戰前ニ於ケル石炭ノ產出額及

#### 各交戰國ニ於ケル石炭ノ需給

千九百十年以降ノ世界ニ於ケル石炭ノ產出額及輸出入ハ左ノ如シ

第十表 (單位噸)

產出額



輸 出

千九百十三年	一、四四〇、四六六	二四、四三九	一七、五五六九	一六、九五六、四〇〇	一三、七三三、四六六	八、九〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	一〇、八四四、〇〇八
千九百十四年	一、四七七、三九九	四五、三二五		一七、三三七、四九九			五、〇〇〇、〇〇〇	九、七九八、八七七

年 次	北米合衆國	英 國	獨 逸	佛 蘭 西	奧 洪 國	白 耳 義	伊 太 利
千九百十年	二四、〇三七、四五〇	查、〇八一、九四八	二四、三〇〇、九九三	一、五八〇、〇七七	八、二七、五九九	五、〇〇〇、〇〇〇	四八、四四四
千九百十一年	一七、七三三、五四九	六五、查三六、〇八四	二七、四〇〇、二八九	一、查三三、〇〇〇	七、六七、七八	五、一〇〇、〇〇〇	四〇、八〇〇
千九百十二年	一八、四五一、二四六	六五、四九八、三四六	三二、〇〇二、〇三三	二、三三〇、三四九	八、〇九七、四八八	五、一〇〇、〇〇〇	二六、三九八
千九百十三年	三三、五二一、一六二	七四、查三三、四查	三四、查三三、八五九	四、三八〇、四九九	七、七五、五八	四、九〇〇、〇〇〇	一九三、〇〇三
千九百十四年	一七、查五九、九查	六〇、〇三三、八七八	三二、〇六二、一九七	九三、四三三			五三、六〇〇

開戰前ノ千九百十三年ニ於テ獨、奧同盟國ニ産スル石炭産出額ハ三億三千餘萬噸ニシテ、聯合國中英、佛ニ於テ三億二千餘萬噸、露國ニ於テ三

千餘萬噸ナリ、即チ露國ヲ加フレハ聯合國ニ於テ產出額多キモ敢テ甚  
 タシキ差違ナシト稱スヘク、之ヲ輸出入ニ見ルニ英、獨ニ於テ輸出シ、佛  
 露、埃ニ於テ輸入シ、戰前ニ於ケル石炭市場ノ狀況ハ露國ヲ除ケハ兩交  
 戰諸國ニ於テ大ナル逕庭ナク、而モ露國ハ石炭ノ輸入ヲ絶タル、モ自  
 國ニハ豊富ナル石油ノ產出スルアリ、蓋シ兩交戰諸國ニ於ケル自給ニ  
 就テハ敢テ甚タシキ不足ナキカ如シ、其埋藏量ハ獨逸ニ於テ推測炭量  
 多大ナルヲ以テ聯合國ニ於テ甚タ劣レルカ如キモ、實測炭量ニ於テハ  
 英國最モ多ク、近キ將來ニ於ケル石炭自給ニ就テハ兩交戰諸國共ニ憂  
 フルニ足ラサルヘシ、即チ其埋藏量ハ左ノ如シ

第十一表 (單位十億萬噸)

國名	實測ニ基ツケルモノ				推測ニ基ツケルモノ				合計
	無煙炭	瀝青炭	褐炭	計	無煙炭	瀝青炭	褐炭	計	
英國	一一・三	一一三〇・一	—	一四一・四	—	四八・二	—	四八・二	一八九・五
歐羅巴	一三〇	二三六・七	二四・四	二七四・一	四一・三	四五六・四	一二・三	五一〇・〇	七八四・二

獨逸		九四、九	九三	一〇四、二		三一五、一	四、一	三一九、二	四二三、四
佛蘭西	〇、六	三、六	〇、三	四、五	二、七	九、一	一、三	一三、一	一七、六
奧洪國		三、〇	一二、二	一五、二		三八、〇	〇、六	三八、六	五三、九
露國					三七、六	二〇、八	一、六	六〇、一	六〇、一
白耳義						一一、〇		一一、〇	一一、〇
西班牙	一、一	四、八	〇、四	六、二	〇、六	一、六	〇、四	二、六	八、八

要スルニ戰前ニ於ケル石炭市場ノ狀況ハ兩交戰國共ニ自給スルニ足リ、輸入國ナル露國ニ於テハ幸ニ石油ノ產出額多大ニシテ之ヲ補フヲ得ヘク、此狀態ニ於テ交戰狀態ニ入レリ、開戰後ハ兩交戰諸國ノ炭田爭奪ノ爲メニ石炭ノ供給ニ於テ著シキ變化ヲ生スルニ至レリ

## 二 交戰地域ニ於ケル炭田（第一圖及第七圖參照）

歐洲戰場附近ニハ獨逸「ウエストフリア」ヨリ白耳義ヲ經テ佛國ノ北部ニ

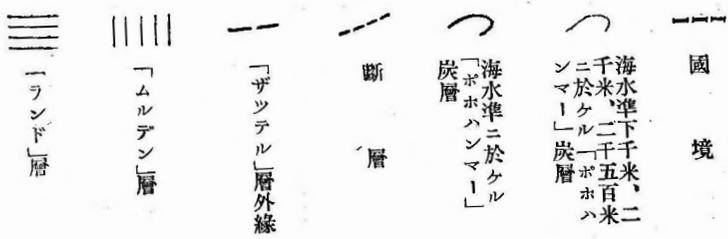
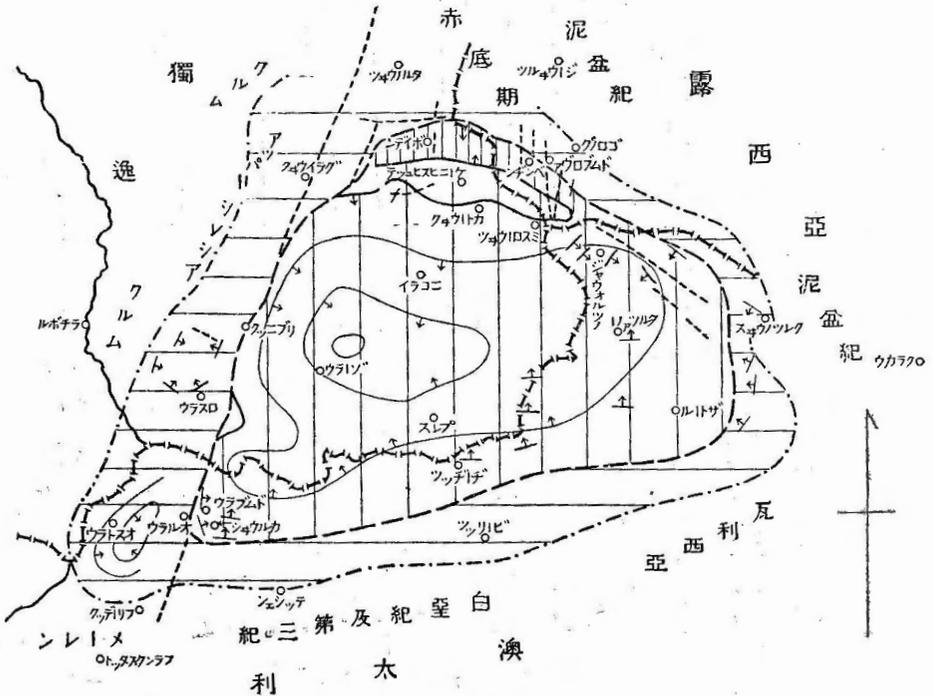
互リ更ニ海ヲ越エテ英國ニ入レル大炭田アリ、歐洲第一ト稱セラル、之ニ次テ露、獨、墺ニ跨レル大炭田アリ、獨逸「ザール」炭田ハ西方境ヲ越エテ佛國ニ連續スルモ佛國ニ於テハ未タ稼行ノ域ニ達セス、此等炭田ハ上部石炭紀夾炭層ヨリ成リ良好ナル瀝青炭ヲ埋藏シ世界ニ於ケル有數ノ炭田ナリトス、今回ノ戰爭ノ開始セラル、ヤ獨逸ハ直ニ白耳義ヨリ佛國ノ北部ヲ侵略シ、東方ニハ露領波蘭ヲ下シ、露、佛、白ノ大炭田ヲ其手中ニ收メタリ、是ニ於テカ兩交戰諸國ニ於ケル石炭ノ供給ハ一變シテ均衡ヲ失スルニ至リ、露、佛、白ノ鑛工業ノ被レル打撃激甚ナルノミナラス、戰局ニ及ホセル影響ノ甚々大ナルモノアリ

(一) 露、獨、墺ニ跨レル炭田(第一圖及第二圖參照)

露、獨、墺ノ三箇國ニ跨レル炭田ハ其既知ノ面積獨、墺ニ於テ廣ク、露國ニ於テ最モ狹キカ如ク、獨逸ニ於テハ之ヲ「アッバー、シレンシア」Ober-Schlesien 炭田、墺國ニ於テハ之ヲ「オストラウ、カルウ<sup>ホ</sup>ン、クラカウ」Ostrian-Karwin-Krakau 炭田、露國ニ於テハ「ドムブロヅ」Dombrova 炭田ト稱シ(第二圖參照)現時墺國

# 圖 二 第

一之分萬十二百約尺縮



●六サ厚シ位ニ下最中層炭行稼六シ在介ニ層「ルテツザ」ハ層炭「マンハホボ」  
 リア米五三  
 ルセ在介ニ層「ドシラ」ニ中地盆「ウラトスホ」ニ茲テシニ國境ハ隅西南ノ田炭  
 ヲセボテ層炭 Adolf 「フルドア」及層炭 Franziska 「カスゲンラフ」

ニ於テハ同國炭田中ノ第一位、露、獨ニ於テハ同國炭田中ノ第二位ノ重要ナル位置ヲ占ム、左ニ其產出額及埋藏量ヲ對比セシ

第十二表 (單位百萬噸)

國名	產出額				埋藏量			面積
	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年	實測	推定	豫測	
露國	五、六	五九	六、四	七、〇	五、五八	八、五三	一、三四、一 (地下千米以上)	方格米 八〇〇
獨逸	三四、二	三七、〇			二〇、三五 (地下千米以上)	一五、六六 (地下千米以上)	大	二、五二七
奧國	九、六	八、四		九、四	二、七〇 (地下二百米以上)	二五、〇九 (地下二百米以上)	大	二、八〇〇

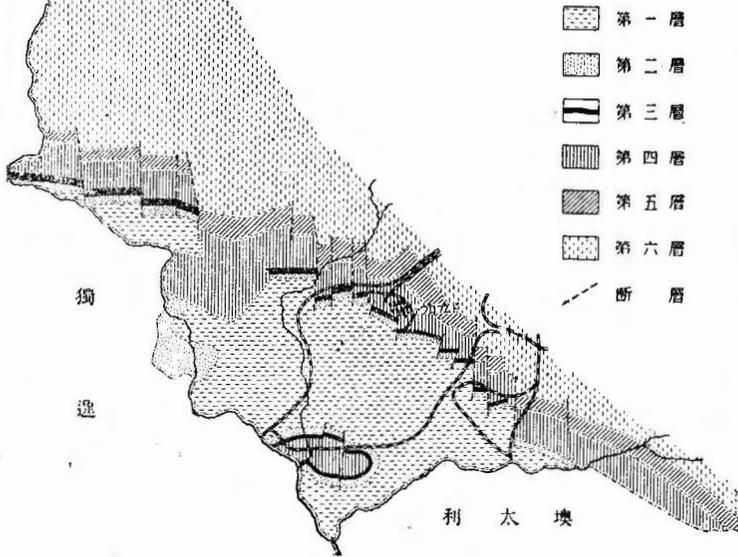
露領ニアル面積ハ最モ狭ク隨テ埋藏量少ナキモ尙二十五億餘萬噸アリト云ヒ、產出額亦最モ少ナキモ能ク七百萬噸以上ニ達シ、同國東部ニ於ケル鐵道及諸工業ノ燃料ハ本炭田ヨリ產出スル石炭ニ據レリ

甲 炭田ノ狀態並ニ開戰前ニ於ケル狀況

一 露國「ドムプロヴァ」炭田(第二圖及第三圖參照)

圖 三 第

一之分萬十三尺縮



「ドムブローア」炭田ハ「アッパー、シレシア」盆地ノ北東縁ヲ占メ、其石炭ヲ埋藏セル地域ハ約八百平方基米アリト云フ、地質ハ石炭紀ニシテ下部ハ南東端ニ近ク露出シ黑色石灰岩ヨリ成リ石炭ヲ埋藏セス、夾炭層ハ主要ナル地域ヲ占メ、北部ハ泥盆紀層ニ、東部ハ石炭紀石灰岩ニ接シ、西方及南方ハ獨逸及太利ニ連ナリ、粘板岩及砂岩ヨリ成リ厚キ炭層ヲ挟ミ、其下部ハ粘板岩質砂岩ノ厚層ニシテ石

炭ヲ埋藏セス、本層ハ大部分三疊紀層ニ被覆セラル(第三圖參照)  
 夾炭層ヲ分テ六トス、之ヲ獨逸「アッバー」、シレシア「炭田」ニ於ケル分類ト對  
 比スルコト左ノ如シ

「トムブロヴァ」炭田

「アッバー」、炭田  
 シレシア

第一層 「レーヅン」Reden 炭層ノ上位ニアル主要炭層ヲ  
 埋藏セル地層

本層ニ埋藏セラル、炭層ハ比較的薄ク炭質ハ劣等  
 ニシテ灰分多ク、粉炭トナリ易シ、炭層ノ厚サ亦不同  
 ニシテ最下ニアルモノ最モ厚ク、厚サ東部ニ於テハ  
 一・五米乃至二・五米、西部ニハ三米乃至五・五米ナリ

「ムルデン」層  
 Mulden Gruppe

第二層 第一層ト「レーヅン」炭層間ノ地層

本層ハ主ニ粗粒砂岩ヨリ成リ、砂岩ハ時ニ蠻岩ニ移  
 過ス、蠻岩中ニ扁桃狀ノ炭層アリテ嘗テ稼行セラレ  
 タリ

第三層 「レーズン」炭層ヲ埋藏セル地層

「レーズン」炭層ハ東部及南部ニハ概シテ一層ニシテ厚サハ厚キハ八米乃至十二米ニ達シ、薄キハ一米ニ達セサルモノアリテ西部ニハ三層ニ分ル、炭質良好ニシテ灰分少ナシ

「ザッテル」層  
Sattel Gruppe

第四層 「レーズン」炭層ノ下位ニアル「サターン」Saturn

炭層群ヲ埋藏スル地層

本層ハ粘板岩及砂岩ヨリ成ル、炭層ハ薄ク且ツ不定ナルモ「アンドレア」Andreaト稱スル炭層ハ厚サ約二米アリテ重要ナリ

「ランド」層  
Rand Gruppe

第五層 「レーズン」炭層ノ下位ニアル「フロラ」Flora炭層群ヲ埋藏スル地層

本層ハ頁岩ヨリ成リ、一般ニ一米乃至一・五米時ニ二米乃至二・五米ノ炭層ヲ埋藏シ黄鐵鑛ハ頁岩及炭層

中ニ散點シ其量稍多シ

第六層 「フロラ」層ノ下位ニアル地層

本層ハ砂岩ヨリ成リ、西部ニハ薄キ炭層ヲ埋藏ス

地層ハ一褶曲ヲナシ約東西ニ走り、南部ニアル背斜軸ハ上部ハ浸蝕セラレテ炭層露出ス、其傾斜ハ甚タ緩ニシテ二度乃至八度ナルモノアルモ又二十五度乃至三十度ニ傾斜スルモノアリ、向斜層ハ北ニ擴カリ傾斜ノ緩ナルトコロハ二度乃至八度ナルモ最高四十五度ニ達スルトコロアリ、層向斷層及層向ヲ切斷スル斷層アリ、後者ハ一帯ヲナシ其落差總計三百五十米ニ達シ、多クハ向斜層ノ北翼ニアリテ西部常ニ陷落ス、層向斷層ハ向斜軸ニ沿ヒ走レリ、厚サ六十「センチメートル」以上、地下深サ約千米以上ニアル石炭ノ埋藏量ヲ計算シタルニ前記ノ如ク、實測、推定、豫測炭量合計二十五億二千五百二十四萬五千噸ナリトス

「ドムブログ」盆地ノ北端ニ近ク三疊紀層アリテ粘土及砂岩ヨリ成リ石灰岩ヲ挾ミ北東ニ緩斜ス、褐炭本層中ニ介在スルモ探求未タ盡サス、

二炭層ハ厚サ〇・七五米乃至一・〇二米ニシテ稀ニ二米ニ達シ産出額ハ十一二萬噸ニシテ其面積七十平方基米アリ、埋藏炭量六千三百萬噸ニ達スヘシト云フ

本炭田ハ露國炭田中第二ニ位ス、即チ左ノ如シ

第十三表 (炭量單位百萬噸、産出額單位噸)

露國	炭量	産出額			
		千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
「ドネツ」	六〇、一〇六	二二、六五〇、〇〇〇	二六、六三六、四〇五	三〇、六四〇、六八九	三三、七三六、六四五
「ドムプロヴァ」	五五、六一三	一六、六九七、五四一	一九、八二六、八三五	二一、二九七、三二三	二五、三〇二、三二〇
「ドムプロヴァ」	二、五二五	五、五九〇、二一三	五、九〇六、八六三	六、四六六、二四五	六、九八七、一一一
輸入				約五、〇〇〇、〇〇〇	約七、〇〇〇、〇〇〇

露國ニ於テ最大ナルハ「ドネツ」炭田ニシテ炭量ニ於テ九割強、産出額ニ於テ七割五分弱ヲ占メ、之ニ次ケル「ドムプロヴァ」炭田ヲ加フレハ埋藏量

及産出額共ニ九割五分ヲ占メ、同國ノ石炭鑛業ハ懸リテ此兩炭田ニアリ、而シテ「ドムプロヴァ」炭田ハ産出額及埋藏量ニ於テ遙カニ「ドネツ」炭田ニ及ハサルモ、同炭田ハ東部露國即チ波蘭地方ニ於ケル唯一ノ燃料供給地ニシテ甚タ重要ナル位置ヲ占ム

露國ハ此等炭田所産ノ石炭ヲ以テシテハ其需要ニ應スルコト能ハス、故ニ石炭ノ輸入税ヲ免除シテ之カ輸入増加ヲ計リ開戦前マテハ輸入額次第ニ増加シタリ、而シテ「ドムプロヴァ」炭田ハ千九百十四年ニ三百八十六萬七千九百七十九噸ヲ産出シテ八月獨軍ニ侵略セラレタリ

## 二 奥國「オストラウ、カルウ<sup>#</sup>ン、クラカウ」炭田

(第二圖參照)

「オストラウ、カルウ<sup>#</sup>ン、クラカウ」炭田ハ「ドムプロヴァ」炭田ニ連續シ南方ハ第三紀層及白堊紀層ニ被覆セラル、奥國ニ於テハ本炭田ハ最も重要ニシテ之カ調査ニ努メ各處ニ試錐ヲ施行シ其結果既知ノ炭田區域二千八百平方基米アリ、炭層ノ數ハ三十「センチメートル」以上ノモノ百七

十三層アリテ其厚サ總計百五十二米ニ達ス、本炭田所産ノ石炭ハ瀝青炭ニシテ塊、洪國ニ於テ最モ重要ナリトス、即チ左ノ如シ

炭 量 (地下千百米マテ)(單位百萬噸)

塊 洪 國	瀝 青 炭		褐 炭		合 計
	實 測	推 定	實 測	推 定	
塊 洪 國	二、九七四	三八、一二一	一二、五八五	一、九一三	五五、五九三
塊 國	二、九七〇	三八、〇二二	一一、二三一	六六三	五三、八七六
「オストラウ、カルウ 井、クラカウ」炭田	二、八七〇	二五、〇九四			二七、九六四

産出額

(單位噸)瀝ハ瀝青炭、褐ハ褐炭

(合計ニ多少ノ差アルハ統  
計出所ノ異ナルニヨル)

塊 洪 國	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
塊 洪 國	四八、六四九、七六八	四九、八五九、六五五	五一、六六八、〇五五	五四、一一一、四三四

洪 國	瀝 青 炭	瀝 青 炭	瀝 青 炭
瀝 青 炭 七、七三四、一六六	一、三〇二、一〇三	一、二九〇、一八二	一、三〇二、四〇五
九、六〇〇、〇〇〇	八、三三〇、〇〇〇	八、二八七、八七一	九、三八二、三五二
瀝 青 炭 二、五、一三二、八五五	二、四、三七九、八一七	二、六、二八三、六九〇	二、七、四九九、八八九
瀝 青 炭 一、三、七三三、九八五	一、五、七九七、八九〇	一、六、二八三、六九〇	一、七、四九九、八八九

洪 國ニハ 瀝青炭ノ 産出額ハ 瀝青炭ノ 産出額ニ 超過スルコト 千萬噸以上、  
 洪 國ニハ 其差更ニ 甚タシク、其 鑛業ハ 重要ナルモ、瀝青炭ハ 品質 瀝青炭ニ  
 比シテ 良好ニシテ 利用ノ 途廣ク 其 鑛業ハ 更ニ 重要ナリトス  
 本炭田ハ 瀝青炭ヲ 産出スル炭田ノ 第一位ヲ 占メ、炭量ハ 塊、洪國瀝青炭  
 ノ 大部分ヲ 占メ、實測炭量ニ 於テ 九割七分強、推定炭量ニ 於テ 六割三分  
 強ヲ 有シ、産出額ニ 於テ 過半ヲ 占ム  
 斯ク 瀝青炭ノ 産出額及 埋藏量ノ 大ナルニ 反シ 重要ナル 瀝青炭之ニ 伴ハ  
 ス、隨テ 瀝青炭ヲ 輸出シ 瀝青炭ヲ 輸入スルノ 狀況ニアリ、千九百十年以 降  
 ニ 於ケル 輸出 輸入ヲ 示セハ 左ノ 如シ

第十五表 (單位噸)

輸入

炭種	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
瀝青炭	九、八六四、四六三	一〇、八七三、七九九	一一、八四八、五三五	一三、六八九、一四九
褐炭	三七、八六七	三四、三八一	三四、八七一	三三、〇九七

輸出

炭種	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
瀝青炭	六一五、〇八二	六〇九、七三七	六五五、一〇六	七〇八、九七五
褐炭	七、四九二、四四七	七、〇六三、九八一	七、四四二、三九二	七、〇一六、六〇六

埃、洪國ニ於ケル瀝青炭ノ產出額ハ以テ自國ノ需要ニ應スル能ハスシ  
 テ千萬噸以上ノ瀝青炭ヲ輸入シテ以テ工業及運搬等ノ燃料ニ充ツ、本  
 炭田ノ同國ニ於テ最モ重要ナル位置ヲ占ムルヤ知ルヘキナリ

三 獨逸「アッバー、シレシア」炭田(第二圖參照)

「アッパー、シレシア」炭田ハ獨逸ニ於テ「ウエストフリア」炭田ニ次ケル第二位ノ重要ナル炭田ニシテ其面積二千五百平方基米ニ互リ、中新期層及第四紀層ニ被ハル、夾炭層ハ既述ノ如ク「ムルデン」、「ザッテル」、「ランド」三層ニ區別スルヲ得ヘク、「ランド」層ニハ炭層ノ數二百二十一アリテ其總厚七十九米ニ達シ、内六十六炭層、其總厚五十二米ハ稼行スヘク、「ザッテル」層ニハ六炭層アリテ其總厚二十七・三二米ニ達シ、其最モ厚キ一炭層ハ厚サ八・六三米アリ、「ムルデン」層ニハ西部ニ於テ二百四十三炭層アリテ其總厚百六十四米ニ達シ、内五十三炭層、其總厚九十三米ハ稼行スヘク、東部ニ於テハ八十四炭層、其總厚七十五米ニ減退シ、内二十一炭層、其總厚四十二・一一米ハ稼行スヘシ

本炭田ハ瀝青炭ヲ産シ獨逸第二位ノ重要ナル炭田ナリトス、即チ左ノ如シ

第十六表 (炭量單位百萬噸、產出額單位噸) (瀝ハ瀝青炭、褐ハ褐炭)

獨逸	炭		産		出		額
	實測	推定	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年	
「ウエスト フアリア」	一〇四、七六 九、三三	三九、七九 四〇、六八	一五、八七、七七 六、五七、二九	一六〇、七四七、三六 七三、七四、三六	一七四、八七五、九七 八〇、九三、九七	一九一、五一、一五四 八七、三三、〇六四	六六、七、八八〇
「アツパ シレツア」	一〇、三五	一五、六三	三、三九、三六〇	三七、〇〇〇、〇〇〇			
「ザール」	一六、五八		一三、三六、八八一 (一九一〇年)				

獨逸ハ此ノ如ク多量ノ瀝青炭ヲ埋藏シ其産出額約二億萬噸ニ達シ、本炭田ノ埋藏量ハ實測ニ於テ一割強、推定ニ於テ四割八分ヲ占ム、産出額ハ二割ニ充タスシテ固ヨリ「ウエストフアリア」炭田ニ比スレハ小ナリト雖モ、本表ニ於テ見ルカ如ク埋藏量及産出額ニ於テ露、塊ニ於ケル炭田ヨリ遙カニ大ニシテ其炭量百六十五億萬噸、年産出額三千七百萬噸ヲ超ユ、蓋シ世界ニ於ケル大炭田ノ一タリ

獨逸所産ノ石炭ハ同國ノ需要ニ對シテ餘アリ、蓋シ同國ハ石炭ヲ輸入

スト雖モ其量ハ輸出ニ比シテ遙カニ少ナシトス、即チ左ノ如シ

第十七表 (單位噸)  
輸 入

炭 種	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
瀝 青 炭	一一、一九五、五九三	一〇、九一三、九四八	一〇、三八〇、四八二	一〇、五四〇、〇一八
褐 炭	七、三九七、七一九	七、〇六九、〇六四	七、二六六、一一六	六、九八六、六八一

輸 出

炭 種	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
瀝 青 炭	二四、二五七、六五一	二七、四一二、二一八	三一、一四五、〇五七	三四、五七三、五一四
褐 炭	六二、四四一	五八、〇七一	五六、九六六	六〇、三四五

乙 開戦後ニ於ケル狀況 (第一圖參照)

千九百十四年八月戦争ノ開始セラル、ヤ獨、埃軍ハ直ニ露領波蘭ニ侵

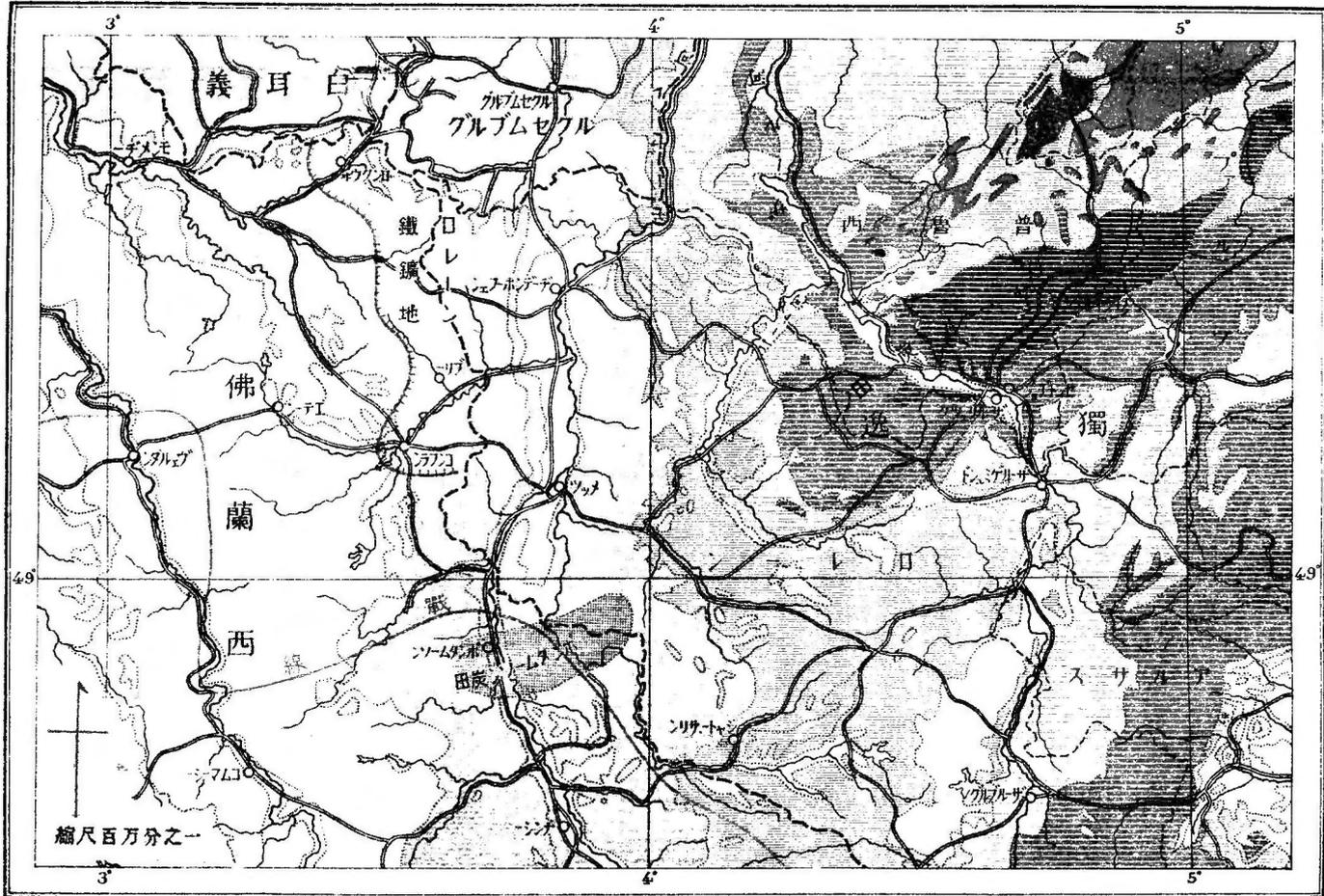
入シ此露西亞ニ重要ナル「ドムプロヴァ」炭田ヲ占領シタリ、同月下旬露軍ハ攻勢ニ轉シ十一月中旬ヨリ下旬ニ互リ大ニ進撃シテ瓦利西亞ノ各地ヲ陷レ、瓦利西亞ノ「クラカウ」、波蘭、「チエンストチョ」[Tschenschoh]ニ迫リ「ドムプロヴァ」炭田ハ固ヨリ之ニ接續セル「アッバー」、シレシア「炭田」及「オストラウ」、カルウ<sup>キ</sup>ン、クラカウ「炭田」ヲ脅威シタルモ十二月ニ入りテ露軍ノ戰況振ハス、次第ニ退却スルニ至リ本炭田ハ之ヲ恢復スルコト能ハスシテ空シク敵手ニ委シタリ(瓦利西亞及羅馬尼油田爭奪ノ項參照)

本炭田ノ全部ハ此ノ如クニシテ獨、埃軍ニ歸セリ、爾來本炭田ノ狀況ニ關シテ知ルヘキノ資料ヲ得ス、隨テ其產出額明カナラス、蓋シ開戰後獨、埃ニ於ケル石炭ノ產出額甚タ減少セス、且ツ比較的容易ニ石炭ヲ採掘シ得ル所以ノモノハ此等既採掘炭田ヲ占領シタル結果ナラスンハアラサルナリ

(二) 獨逸「ザール」Saar 及佛國「ボンタ、ムーンソン」

Ponta Mousson 炭田 (第四圖參照)

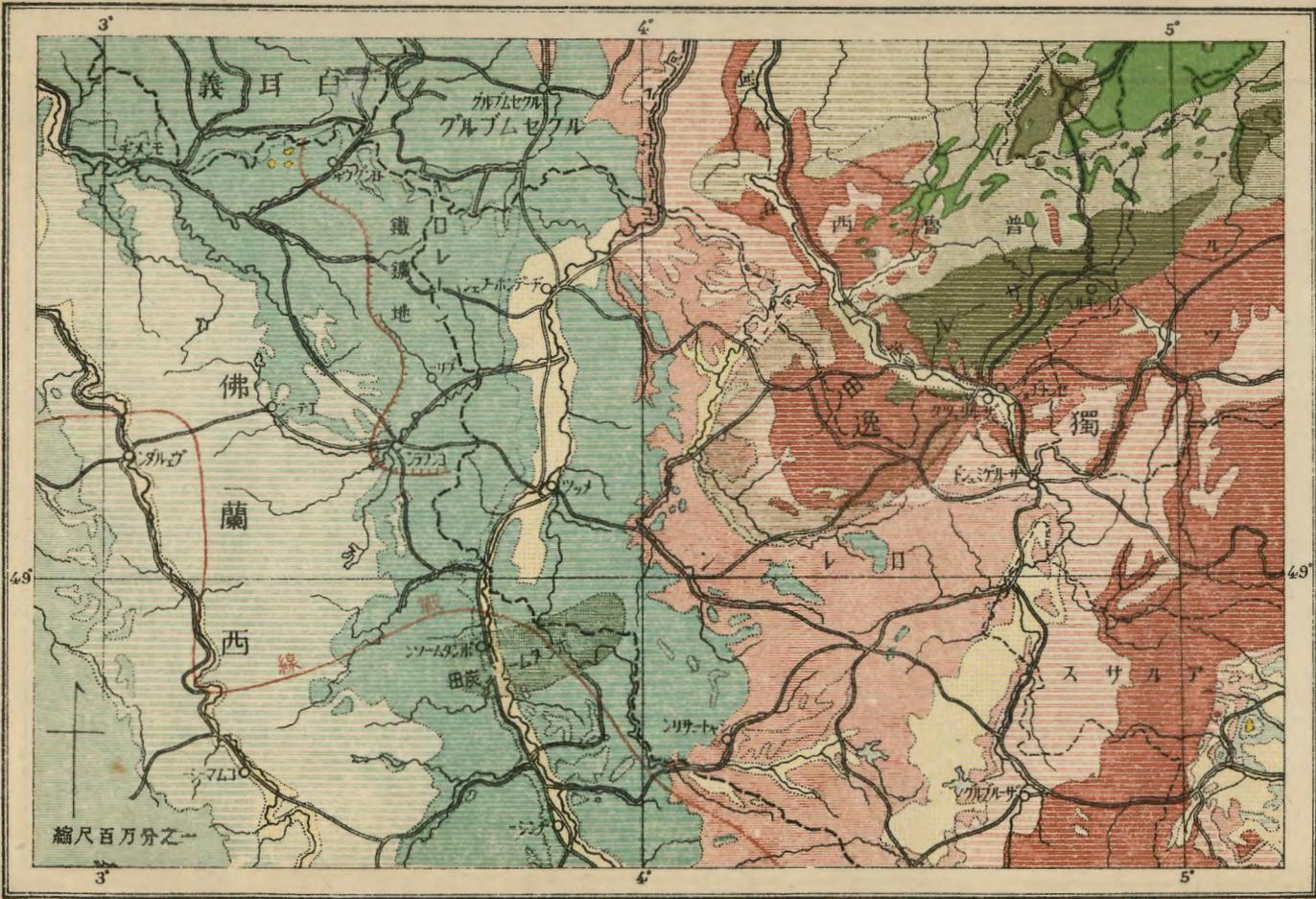
普魯西「ザール」地方及「バ、リア」州「パルツ」Pfalz地方ヨリ獨領「ロレーン」ニ跨リ佛國ニ達スル炭田ハ卽チ「ザール」炭田ニシテ北東ヨリ南西ニ互リ延長約百二十基米、幅最大四十基米ニ達シ、普、佛戰後佛國ヨリ獲得シタル地域ヲ併セ既知炭田面積四萬七千五百五十「ヘクタール」ナリトス本炭田ハ千四百二十年發見セラレ千七百五十年以降稍發達シタリ、「ロレーン」地方ハ二疊紀及中生層ニ被覆セラレ夾炭層ノ露出ナク、其石炭ハ千八百十六年試錐ニヨリ發見セラレ、爾來數多ノ試錐ニヨリ佛國ノ境界ニ至ルマテ地下二千米以上ニ其賦存スルコトヲ確認シタリ、炭層ハ其數多ク處ニヨリ異ナルモ稼行スヘキ炭層ハ三十七層ニシテ其總厚四十二三米ナリトス、獨逸ニ於テハ本炭田ハ前述ノ如ク其炭量ニ於テ實測總炭量ノ一割五分強、實測推定總炭量ノ四分弱、其產出額ニ於テ總產出額ノ五分内外ニ過キスト雖モ同國炭田ノ第三位ニ居リ、實測炭量百六十五億萬噸、產出額千三百萬噸ヲ超ユ、卽チ獨逸ニ於ケル重要ナル炭田ニシテ亦以テ世界ニ於ケル有數ナル炭田ト稱スヘキナリ



經度ハ佛國巴里ヲ零度トシテ計算セリ



混合泥 上部石炭紀 二疊紀 礫砂層 船形期 上疊紀 石炭紀 下部石炭紀 中部石炭紀 上部石炭紀 漸新期 第四紀 礫岩層 斑岩等



經度ハ佛國巴里ヲ零度トシテ起算セリ



「ポインタ、ムーソン」炭田ハ「ザール」炭田ニ隣接ス、此地方ニハ全ク夾炭層ノ露出ナク厚ク珠羅紀層ニ被覆セラル、其地下ニ賦存セルコトハ地質調査ニヨリ之ヲ推斷シ數多ノ試錐ニヨリ確認セラレ、夾炭層ニ達スルノ深サハ六百五十九米乃至九百五十五米ニシテ試錐ハ一層乃至七層ノ炭層ニ達シタルモ夾炭層ノ基盤ニ達シタルモノナク、尙地下ニ深ク炭層アルヤ否ヤ明カナラサレハ之ヲ探求スルヲ要ス、炭層ノ厚サハ○・六米乃至六・三米ニシテ一背斜層ヲナシ獨逸ノ境界ヨリ南西方二十五基米ノ間之ヲ追跡スルヲ得ヘシ

本炭田ハ未タ操業セラル、ニ至ラス、其既知面積ハ一萬五千「ヘクタール」ニシテ炭量三億三千萬噸アリ、此外試錐スルニ於テハ更ニ新ニ炭層ヲ發見スヘク、隨テ其地域更ニ擴大スヘク、殊ニ背斜層ハ二十五基米ニ互リ其地下ニハ炭層ヲ埋藏スルナルヘク、本區域ハ實ニ將來佛國ノ寶庫トシテ有望ナル炭田タルヘシ

此地方ニ於テハ佛軍ハ當初優勢ニシテ獨領「ロレーン」ニ侵入シタリシ

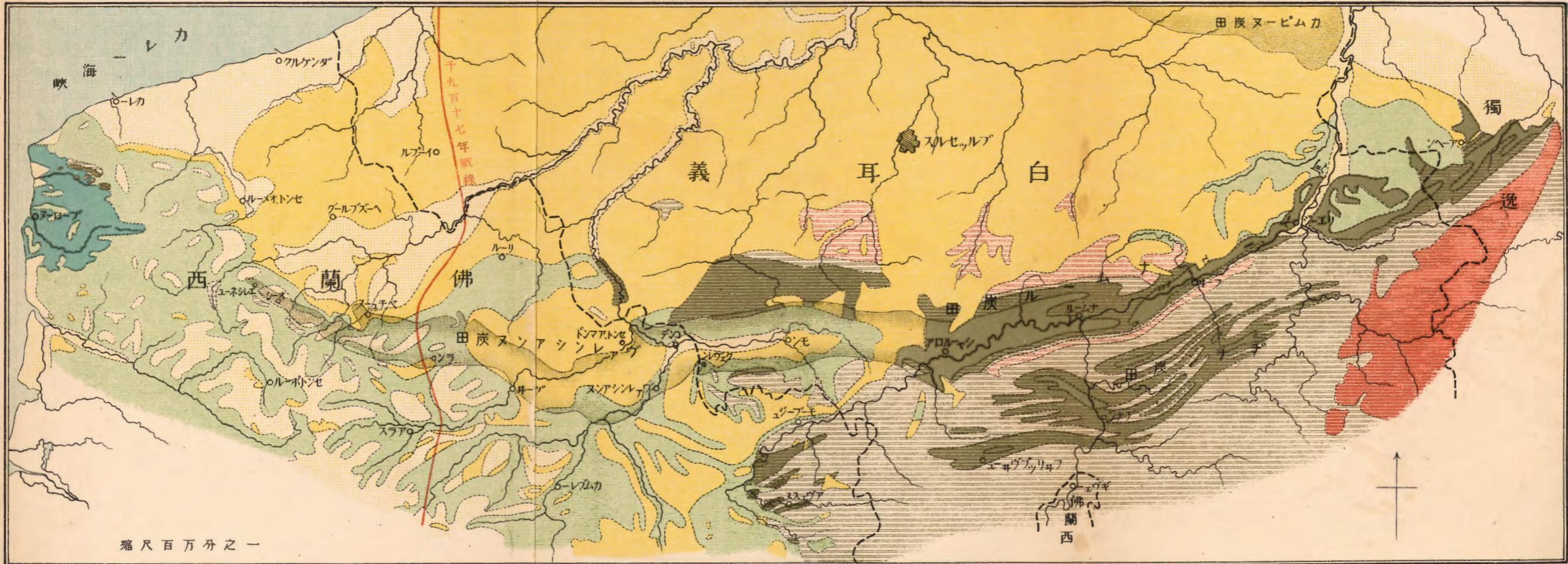
モ、八月下旬退却シ爾來殆ント不變ノ状態ニアリ、炭田ハ未タ稼行セラ  
 レス、隨テ交戰地域ニ近シト雖モ兩軍ニ於テ未タ爭奪ノ域ニ達セスシ  
 テ兩軍ハ本炭田ノ北方ニ於テ相對ス(第七圖參照)

(三) 歐洲北部大炭田(第五圖參照)

獨逸「ウエストフアリア」大炭田ヨリ白耳義ニ互リ更ニ佛國ノ北部ニ連ナレ  
 ル大炭田ハ海ヲ越エテ英國ニ入レリ、本炭田ハ歐洲ニ於ケル最大炭田  
 ニシテ主ニ上部石炭紀層ヨリ成リ下部石炭紀ニ屬スルモノハ其區域  
 狹シトス、其上部ハ三疊紀層、白堊紀層、第三紀層及第四紀層ニ被覆セラ  
 レ本層ノ地表ニ露出セサル區域廣域ニ互レルトコロアリ、各其本國ニ  
 於ケル産出額及炭量ヲ舉クレハ左ノ如ク以テ本炭田ノ如何ニ重要ナ  
 ルカヲ知ルヘキナリ

第十八表 (炭量單位百萬噸、産出額單位噸)(瀝ハ瀝青炭、褐ハ褐炭)

既知面積	炭層數	厚	サ	炭	量	産	出	額	
						千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年



縮尺百万分之一

-   
 寒武利亞紀層
-   
 志留利亞紀層
-   
 泥盆紀層
-   
 下部石炭紀層
-   
 上部石炭紀層
-   
 珠羅紀層
-   
 白堊紀層
-   
 第三紀層
-   
 第四紀層



量ノ五割以上、産出額ハ九千六百餘萬噸ニシテ總産出額ノ三割以上、瀝青炭總産出額ノ五割以上ヲ占ム、實ニ獨逸鑛工業ノ其盛ヲ致ス所以ノモノハ本炭田ノ賜ナリト稱スルモ過言ニアラサルナリ

交戰地域即チ國境ニ近ク賦存スル獨逸ノ三大炭田ハ前記ノ如ク實ニ重要ニシテ獨逸ニ於テ第一位、第二位、第三位ニ居リ、之ヲ合スレハ實測炭量ニ於テ八百三十二億萬噸、推定炭量ニ於テ三千百二十八億萬噸ヲ超エ、前者ハ獨逸總炭量ノ八割、後者ハ九割七八分、合計ニ於テ九割強ニ當リ、産出額ニ於テ一億四五千萬噸ニ上リ、瀝青炭ノ總産出額ノ七八割ヲ占メ、事實上獨逸ノ石炭鑛業ヲ支配スルモノト云フヘキナリ

## 二 白耳義炭田(第五圖參照)

白耳義ニ三炭田アリ、現時盛ニ稼行セラル、ハ「ナムール」[Namur]炭田ニシテ東ハ和蘭ニ接シ、西ハ佛蘭西ニ入り同國ヲ東西ニ貫通シ「ミーズ」[Meuse]河ニ沿ヒテ一大向斜層ヲナス、本炭田地方ハ同國ノ石炭鑛業ノ中心ナルト共ニ工業ノ中心ニシテ「リエージュ」[Liège]「フーキ」[Huy]「ナムール」[Namur]「シャル

ロア「Charleroi」「モン」Mons等ノ都市ハ皆本炭田中ニアリ、而シテ「シャルロア」ノ西部ニ互レル夾炭層ハ白堊紀層又ハ始新期層ニ被覆セラル、モ地質調査ノ結果夾炭層ハ地下ニ伏在スヘキヲ斷シ試錐ニヨリ其存在ハ確認セラレテ現時亦盛ニ稼行セラル、其南ニアル「ヂナン」Dinant炭田ハ處々ニ散在スル盆地中ニアリテ小ニシテ重要ナラス、千九百一年ニ地質調査ノ結果試錐ニヨリ發見セラレタル「カムピーヌ」Campine炭田ハ未タ稼行セラル、ニ至ラスト雖モ試錐ノ結果ニヨレハ厚サ四十「センチ」メートル以上ノ炭層ノ地下深サ千五百米迄ニ埋藏セラル、炭量ハ八十億萬噸ナリト註セラレ、將來大ニ嚙望セラル、炭田ナリトス  
白耳義炭田ハ前記ノ如ク其埋藏炭量百十億萬噸アリテ其年產出額二千三百萬噸ヲ超過ス、同國ノ一小國ナルニ關セス其工業ノ盛大ナルハ此炭田ノ賜ニシテ東ハ獨逸トノ境界、西ハ佛蘭西トノ境界ニ至ルマテ東西四五十里ノ間ハ實ニ同國ノ寶庫ナリトス

### 三 佛國北部炭田(第五圖參照)

佛國北部ハ廣ク白堊紀層及始新期層ニ被覆セラレテ夾炭層ノ露出ナク地質調査ト試錐トニヨリ大炭田ヲ發見シタリ、本炭田ハ普通「ヴァレンシアヌス」Valenciennes炭田ト稱セラレ、佛國ノ寶庫ニシテ白耳義トノ國境ヨリ「ヴァレンシアヌス」、「ヅーキ」Donai地方ヲ經テ「カレ」Calais地方ニ至リ遙カニ西方ニ互リ更ニ海ヲ越エテ英國ニ入レリ

本炭田ハ延長約百基米ニ互リ數多ノ炭層アルモ〇・九米乃至二米ノ炭層四十ヲ算シ總厚三十米ニ達スルコトアルモ普通十米乃至十五米ナリトシ其炭量九十五億萬噸ヲ超ユト稱ス

本炭田ハ佛國第一位ノ炭田ニシテ即チ左ノ如シ

第十九表 (炭量單位百萬噸、產出額單位噸) (瀝ハ瀝青炭、褐ハ褐炭)

佛 國	炭 量		產 出 額		
	實 測	推 定	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年
佛 國	四、五〇四	一三、〇七九	瀝三七、六三四、八九三 褐七一五、〇〇〇	瀝三三、八二一、〇〇〇 褐七〇九、〇〇〇	瀝四一、一四五、〇〇〇 褐七五一、〇〇〇
北部炭田	三、七九〇	五、七三〇	瀝二五、六〇八、三四二	瀝二八、一五二、九九二	瀝二九、八八八、〇一五
					瀝二八、六四五、七二九

本炭田ハ佛國ニ於テ最モ重要ニシテ炭量ニ於テ總炭量ノ八割、產出額ニ於テ七割以上ヲ占メ、殆ント佛國ノ石炭鑛業ヲ左右スルノ狀況ニア  
 ルモ、產出額ハ全國ノ需ニ應スルニ足ラスシテ輸入ノ狀況ニアリ、即チ  
 左ノ如シ

第二十表 (單位噸)

	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
輸 入	一八、一四五、八七二	一九、七四〇、五三九	一九、八七八、四七七	一六、九五八、四〇一
輸 出	一、五八〇、〇七七	一、六三五、〇〇〇	二、三二〇、三四九	四、三八〇、四九九

乙 開戦後ニ於ケル狀況(第七圖參照)

本炭田ハ歐洲ニ於ケル最大炭田ニシテ佛、獨、白ニ於ケル寶庫タリ、而シテ佛、獨ニ於テハ其產出額及埋藏量ニ於テ第一位ヲ占メ、白耳義ニ於テハ唯一ノ炭田タリ、今回ノ戰爭ノ開始セラレ、ヤ獨軍ハ直ニ白耳義ヲ侵シ「ミューズ」河ニ沿ヒテ進ミ、同國ノ炭田ヲ占領シテ其鑛工業ヲ其手中

ニ收メ、更ニ佛蘭西ノ北部ヲ占領シテ「ヴァレンシアヌ」炭田ノ三分ノ二ヲ獲得セリ、玆ニ戰爭ノ經過ヲ見ルニ千九百十四年八月一日獨逸ハ動員令ヲ發シ、獨、白ノ國境ニ於テハ同月二三日頃既ニ戰爭開始セラレ、四日ニハ獨軍ハ進ンテ「リエージュ」ヲ圍ミタリ、五日獨軍ハ一タヒ白軍ノ爲メニ擊退セラレタルモ遂ニ之ヲ陷レ、勢ニ乘シ「ミューズ」河沿岸ノ諸城ヲ下シ八月廿一日ニハ「シャルロア」ヲ圍ミ、翌二十二日激戰ノ後遂ニ之ヲ陷レ、二十四日ニハ佛、白ノ國境ヲ越エ白、佛軍ハ佛國ノ「ギヴェ」Givetニ退却シ、白耳義ニアリシ英軍モ亦二十二日優勢ノ獨軍ニ擊退セラレテ佛國「モーブージュ」Morbegnoニ退却シ、白耳義ハ沿海岸ノ一部ヲ除ケハ三週日ニシテ悉ク獨軍ノ手ニ歸シ、彼ノ隆盛ナル白耳義ノ鑛工業ハ全ク獨逸ノ支配スルトコロトナレリ、獨軍ハ更ニ勢ニ乘シ甚タシキ抵抗ナク佛國ノ北部炭田地方ヲ侵略シ、九月五日ニハ巴里ニ迫リ、一時吾人ヲシテ巴里ノ危急ヲ想ハシムルニ至レリ、幸ニシテ翌六日「マルヌ」ノ大戰ニ於テ佛軍ハ大勝ヲ博シテ攻勢ニ轉シ、進擊シテ同月末ニ至リ「イーブル」、

「アラス」、「ヴェルダン」附近即チ略現戰線ニ擊退シタルモ「ヴァレンシアンヌ」炭田ノ三分ノ二ノ區域ハ獨軍ニ占領セラレ遂ニ之ヲ恢復スルニ至ラスシテ以テ今日ニ至レリ

白耳義炭田ハ獨軍ノ占領後獨逸ノ支配下ニ於テ稼行セラル、蓋シ戰爭ノ爲メ被レル損害ハ大ナルモノアリシナルヘシト雖モ幾何モナク恢復セラレタルカ如ク、產出額ハ開戰前ト大差ナキカ如シ、獨軍ニ占領セラレタル「ヴァレンシアンヌ」炭田亦多大ノ損害ヲ被レルナルヘシト雖モ獨軍ハ直ニ之カ復舊ニ努力シ、其產出額ハ之ヲ知ルノ資料ナキモ或ハ開戰前ヨリ増加シタリト唱フルモノアリ、想フニ開戰前ト大差ナシト思惟シテ大過ナカルヘク「ウエストフリア」炭田ハ遂ニ交戰地域タラスシテ開戰前ト毫モ異ナルナキナリ

### 三 開戰後ニ於ケル石炭供給ノ變動

開戰前ニ於ケル各交戰國ハ石炭ノ供給ニ於テ略其均衡ヲ保チタリシモ開戰ノ當初ニ於テ獨軍ハ西部戰場ニ白耳義ヲ侵略シ其炭田ヲ收メ

タルノミナラス佛國北部炭田ノ過半ヲ占領シ、東部戰場ニ於テハ露領「ドムプロヴァ」炭田ヲ奪ヒタリ、其結果獨逸ハ容易ニ石炭ヲ採掘シテ其供給ヲ豊富ニシ、之ニ伴ヘル各種鑛工業ノ其手ニ歸シタル爲メ自國ニ於テ新設又ハ擴張スルコトナクシテ鑛工業製品ノ供給ヲ豊ニスルコトヲ得タリ、之ニ反シテ自耳義ハ其炭田ノ全部ヲ失ヒ、露、佛亦第一位又ハ第二位ノ炭田ヲ侵略セラレテ其鑛工業地ハ爲メニ蹂躪セラレタリ、而シテ兩國ハ石炭輸入國ナリシヲ以テ其受ケタル打撃甚タ大ニシテ燃料ノ缺乏ハ固ヨリ各種鑛工業ノ被レル打撃モ豫想ノ外ニアラン、其結果自國ニ於ケル炭田ノ設備ヲ増大シ又ハ新ニ採掘ヲ開始シ、鑛工業ニ對シテモ亦増設又ハ新設セサルヘカラサルニ至リ、殊ニ戰時ニ於テハ石炭ノ需要ノ益増加スルト共ニ鑛工業製品ノ需要激増セルニ關セス開戦ノ當初ニ於テ露、佛ノ聯合國ハ此厄ニ會シ、石炭ノ供給ニ於テ變動ヲ來セリ、開戦後ニ於ケル石炭ノ産出額左ノ如シ

第二十一表 (單位噸) (イ)「ド」(ロ)「ドムプロヴァ」

年次	北 合衆國	英 國	獨 逸	佛 蘭西	澳 洪國	白 耳義	露 國	伊 太利	其 他	合 計
千九百十四年	四六五、八〇〇、四三二	三七〇、〇六六、三三二	三四五、四八八、三九三	三〇八、三六八、三八四	四四〇、一四七、三六六	四三〇、三〇四、五六一	一六、三三三、二八二	一七九、五八八、〇九八	〇九、三五	一、二〇〇、二七八、二〇〇
千九百十五年	四六九、三九、四九九	三七一、四九九、四二	三三五、〇八六、四二八	四四三、〇〇七、七九九	四二七、九八二、二四	四三、三六六、七七	一六、五三三、五八	一、七四四、四九二		
千九百十六年	四四、九八五、四三三	二五七、二五五、六五五		一九、九七七、九六〇	四六、〇八六、一九七	二八、〇九二、八三三	二六、三七四、四〇四			

開戦後各國ニ於ケル石炭ノ産出額ハ多少減退シタルノミナルモ獨リ佛蘭西ハ第一位ノ炭田ノ大部ヲ占領セラレタル結果其産出額ハ開戦前ノ半額ニ達セス、隨テ開戦前石炭輸入國タリシ佛國ハ益之カ不足ヲ致シ、開戦前ニハ之ヲ英、獨ニ仰キタリシモ開戦後ハ全ク之ヲ英國ニ仰カサルヘカラス、而モ運搬意ノ如クナラスシテ動モスレハ缺乏ヲ致サントス、英國ハ開戦前輸出國タリキ、開戦後同國ニ於ケル石炭ノ需要增加セシノミナラス佛、伊ノ聯合國ハ多量ノ石炭ヲ專ラ英國ニ仰カサルヘカラス、隨テ其需要益多キニ係ラス不幸ニシテ炭礦ニハ同盟罷業アリ、産出意ノ如クナラス、遂ニ政府ハ自ラ炭田ヲ管理シ産出額ノ増加ニ

努メタルモ勞働者不足等ノ爲メ其產出額ハ尙開戰前ニ及ハス、即チ各國共ニ大ニ節約シテ以テ其需要ヲ充タスヲ得タルナルヘシ、開戰後ニ於ケル輸出入ハ明カナラサルモノ多キモ左ニ之ヲ記セン

第二十二表 (單位噸)

輸 入

年 次	北米合衆國	英 國	佛 蘭 西	露 國	伊 太 利
千九百十四年	一、四一七、三三九	四五、三一五	一七、六三七、一四九	三、六三七、四四七	九、七五八、八七七
千九百十五年	一、五五一、六八三	三、八四三	一九、六九三、五九九	四八、六〇〇	八、三七六、九七七
千九百十六年	一、五六三、五四三	三、二五七	九、九八二、九三九 <small>(上半期)</small>	四、〇六六	八、〇六五、〇四一

輸 出

年 次	北米合衆國	英 國	獨 逸	佛 蘭 西	伊 太 利
千九百十四年	一七、九二五、九六二	六〇、〇二三、八七八	一三、二九六、三六六	九一三、四三二	五二、六二〇

千九百十五年	二〇、六三二、一七八	四四、二六〇、三五〇	六、四六四、一九七	二三九、九〇五	七八、九八七
千九百十六年	二三、五一五、六二七	三八、九六九、〇一三			九四、三一九

要スルニ西部戰場ニ於ケル石炭ノ供給者ハ事實上英國ナリトス、佛國ハ其產出額二千萬噸ニ滿タスシテ英國ヨリ略同額ヲ輸入シ、伊國ハ產出額僅カニ百六七十萬噸ニシテ大部分ハ之ヲ輸入ニ仰ケリ、而シテ北米合衆國ヨリ遠ク海ヲ越エテ伊國ニ輸入シタル石炭ノ量ハ千九百十五年ニハ二百九十三萬千五百八十一噸、千九百十六年ニハ百七十三萬五千七十二噸ニ過キスシテ其他ハ之ヲ英國ニ仰ケリ

東部戰場ニ於ケル狀況ヲ見ルニ石炭輸入國タル露國ハ開戦後海外ヨリ輸入ヲ遮斷セラレ、開戦前ニハ約七百萬噸ノ石炭ヲ輸入シ得タルモ開戦後ハ殆ント全ク輸入杜絶ノ状態ニアリ、加之同國第二位ノ「ドムブロヴァ」炭田ハ開戦ト共ニ獨、埃軍ニ占領セラレ其產出額ニ於テ六七百萬噸減少シタリ、此ノ如キ状態ニアルヲ以テ露國ニ於テハ石炭ハ益窮乏

ヲ致スニ反シ各鐵道ハ著シク繁忙ヲ致シ、從來本炭田ノ石炭ヲ使用シタル東部即チ戰線附近ノ鐵道ハ開戰後特ニ繁忙ヲ致セルモ其燃料ハ遠ク之ヲ「ドネツ」炭田又ハ「バク」油田ニ仰カサルニ至リ、其不便、不利名狀スヘカラサルモノアリ、其他鑛工業等石炭燃料ノ需要益甚タシキノ際悉ク之ヲ「ドネツ」炭田ニ仰カサルヘカラサルモ到底國內ノ需要ニ應スルコト能ハサルナリ、幸ニ露國ニハ「バク」油田アリ、大森林アリ、燃料ノ供給果シテ如何ノ狀態ナルヤ茲ニ之ヲ詳述スルノ資料ヲ得サルモ石油及薪材ニヨリテ以テ石炭ノ不足ヲ補ヘルナルヘク、而モ交通運搬意ノ如クナラサルハ之ヲ察スルニ難カラス、而シテ「バク」油田産石油ハ「ダーダネルス」海峡ノ閉鎖ト共ニ殆ント之ヲ輸出スルコト能ハサルニ至リ、石炭窮乏ノ結果內國ニ於テ之ヲ使用スルノ量激増シタリ、獨リ鐵道ニ就テ之ヲ見ルモ其使用量漸次増加セリ、蓋シ戰爭開始前ニ於テハ鐵道燃料トシテ石炭ノ使用量漸次増加シ石油及薪材ノ使用量減少スルノ趨勢ニアリタリ、即チ左表ニ示スカ如シ

第二十三表

年次	石	炭	石	油	薪	材
千九百四年		五、三二二、〇二四噸		二、〇九九、九八〇噸		一〇、〇三一、二四四 立方米
千九百五年		五、八六三、七二八		一、九二七、九八四		一二、八六三、四七三
千九百六年		六、九六八、二六五		一、八一七、九〇八		一一、九四三、六八二
千九百七年		七、八二六、六〇三		一、八二九、七〇二		一二、四九九、二四七
千九百八年		七、七八〇、七三八		一、八〇〇、二一六		一二、三四一、九〇二
千九百九年		七、二〇五、七八二		一、八四二、〇〇六		一二、七六四、四〇三
千九百十年		六、七四八、七六六		一、九二三、〇七〇		一一、七三九、七一六
千九百十一年		七、〇三五、四二五		二、〇九八、三四二		一一、八四一、六九九
千九百十二年		八、一八〇、四二二		一、九八八、五九三		一一、四五七、〇七七

千九百十三年

九、六四八、二五

一、七九二、〇二七

一〇、三九二、五九六

戰爭開始後石油及薪材ノ使用量増加ス、即チ左ノ如シ

第二十四表

年次	石炭	石油	薪材
千九百十三年	九、一七三、三八六 噸 百分比 六八・七	一、九九六、九四一 噸 百分比 二〇・二	八、六七五、〇六五 立方米 百分比 一一・一
千九百十五年	一一、〇八三、〇四六 噸 六六・五	二、二六二、一四七 噸 二〇・三	一三、一八〇、一〇五 立方米 一三・二
千九百十六年	一一、〇〇七、六九六 噸 六六・九	二、七六八、三〇五 噸 三三・二	一五、六九五、六九〇 立方米 一四・九

隣テ中央同盟國ニ於ケル石炭ノ供給如何ヲ見ルニ、西部戰場ニ於テハ  
 白耳義及佛國北部ノ炭田ヲ收メ、直ニ「ウエストリア」炭田ヨリ技術官ヲ  
 派遣シテ戰爭ノ爲メ被レル損害ノ修理ヲ了シテ石炭ノ探掘ヲ開始シ、  
 之ニ伴ヘル鑛工業ヲ復舊シ、東部戰場ニ於テハ露領「ドムブロヴァ」炭田ヲ  
 收メ、西部戰場ニ於ケルト同シク「アッパ」、シレシア「炭田又ハ」オストラウ

カルウ<sup>ン</sup>、クラカウ<sup>ウ</sup>炭田ヨリ技術官ヲ派遣シテ事業ヲ開始シ、以テ戰場ニ近ク石炭燃料及鑛工業品ヲ補給スルヲ得ルニ至リ其利便實ニ尠少ナラサルモノアリ

想フニ開戦ノ當初ニ於テ獨、埃軍ハ此ノ如ク甚タ利便ナル資源ヲ得タルニ反シ、露、佛ハ交戦地附近ニ於ケル豊富ナル石炭ト、鑛工業品トヲ失ヒテ之ヲ遠隔ノ地ニ仰カサルヘカラサルニ至リ、殊ニ海ヲ越エテ英國、時ニ北米合衆國ニ仰カサルヘカラサルニ至リテハ戰時輸送品ニ忙殺セラル、ノ際其不便、不利實ニ堪フヘカラサルモノアリ、之ヲ中央同盟國ノ交戦地附近ニ於テ補給シ得ルト同日ニ論スヘカラサルナリ

### 第三章 鐵 鑛

#### 一 開戦前ニ於ケル鐵鑛業

千九百十年以降鐵鑛及鐵ノ產出額及其輸出入ヲ舉クレハ左ノ如シ

第二十五表（鐵鑛單位百萬噸、其他單位噸）





鐵鑛輸出入 (單位噸)

國名	千九百十年		千九百十一年		千九百十二年		千九百十三年		千九百十四年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
獨逸	三,九三三,三〇四	九,八六八,八三三	三,五六一,九八〇	八,三三九,五五〇	二,三〇九,六八三	三,〇〇〇,〇五〇	三,六三三,一五八	二,九〇〇,〇四〇		
佛蘭西	四,九三三,五四一	一,三八五,五〇〇	六,六〇一,〇〇〇	一,三五〇,七九〇	八,三八八,三三三	一,四五四,一九〇	一,〇〇〇,〇〇〇	四,八二八,五九三	一,〇四四,一六〇	
英國	七,四四四,四〇〇	七,一三三,四〇〇	六,一五三,〇〇〇	六,四四八,四〇〇	六,二四一,〇〇〇	六,七〇八,四〇〇	五,二七八,七五六	二,七四三,五九九	五,七九九,九二八	
白耳義		五,一〇〇,〇〇〇		五,一〇〇,〇〇〇		六,一〇〇,〇〇〇		六,五〇〇,〇〇〇		
西班牙	八,三〇〇,〇〇〇		七,三〇〇,〇〇〇		七,五〇〇,〇〇〇		七,五〇〇,〇〇〇			
奧洪國	一四四,八七〇	三〇七,一九〇	二四,六六〇	四九,五五三	一一,四六六	六八,八六七	一〇六,〇七一	九四三,三三三		
瑞典	四,四四四,八〇五		五,〇八六,八九八		五,五三〇,六五三		六,四三三,六四四		四七六,三三四	

是ニ由リテ之ヲ觀ルニ歐洲諸國ニ於テ鐵鑛ヲ產出スル諸國ハ英、佛、獨、露、奧、瑞典、西ニシテ其他ノ諸國ハ言フニ足ラス、而シテ佛、西、瑞典ハ之ヲ

輸出シ、白國ノ鐵鑛業ハ全ク鐵鑛ノ輸入ニ待チ、英、獨ハ輸入ニヨリ其鑛業ヲ維持シ又ハ盛ナラシム、而シテ瑞典及佛國ノ鐵鑛ハ主ニ獨逸ニ入リ、西班牙ノ鐵鑛ハ主ニ英國ニ入ル、即チ多量ノ鐵鑛ヲ輸入スル英、獨ハ其製品ヲ輸出シ多量ノ鐵鑛ヲ輸出スル佛國ハ其製品ヲ輸入ス

茲ニ交戰諸國ノ開戰前ニ於ケル狀態ヲ見ルニ石炭ト同シク獨、埃ニ於ケル鐵鑛ノ產出額ハ英、佛ニ優リ露國ヲ加フレハ獨、埃劣レルモ、銑鐵、鋼鐵殊ニ鋼鐵ニ於テハ其甚タ獨、埃ニ劣レルヲ見ル、即チ開戰前ニ於テハ獨、埃ノ同盟國ニ有利ナルカ如キモ獨逸ノ盛ナルハ輸入ニ待ツモノ多ク、其埋藏量ハ第二十六表ニ示スカ如ク聯合諸國ニ於テ著シク大ニシテ獨、埃ニ優リ原料ハ豊富ナリト云フヘク、石炭ニ於ケルト同シク近キ將來ニ於ケル自給ニ於テハ兩交戰諸國共ニ敢テ不足ナカルヘシ

第二十六表 (單位百萬噸)

國名	實測ニ基ツケルモノ	推定ニ基ツケルモノ
	鐵鑛	鐵鑛

諾威	瑞典	歐露	希臘	洪牙利	奧太利	伊太利	葡萄牙	西班牙	佛蘭西	歐羅巴
三六七	一、二五八	八六四	一〇〇	三三一	二五〇、九	六		七二一	三、三〇〇	一二、〇三二、九
一二四	七四〇	三八七	四五	一三一	九〇、四	三、三		三四九	一、一四〇	四、七三二、八
一、五四五	一七八	一、一〇一、三		七八、九	三四五、一	二	七五	大		四一、〇二八、七
五二五	一〇五	四四〇、七		三四、一	一〇八、三	一	三九			一二、〇八四、六

英國	一、三〇〇	四五	三七、七〇〇	一〇、八三〇
白耳義	六二	二五		
獨逸	三、八七七、七	一、三六〇		

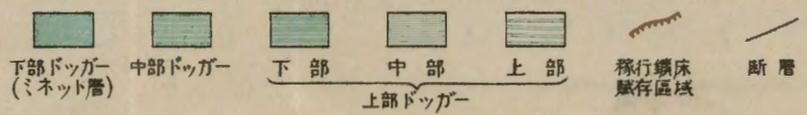
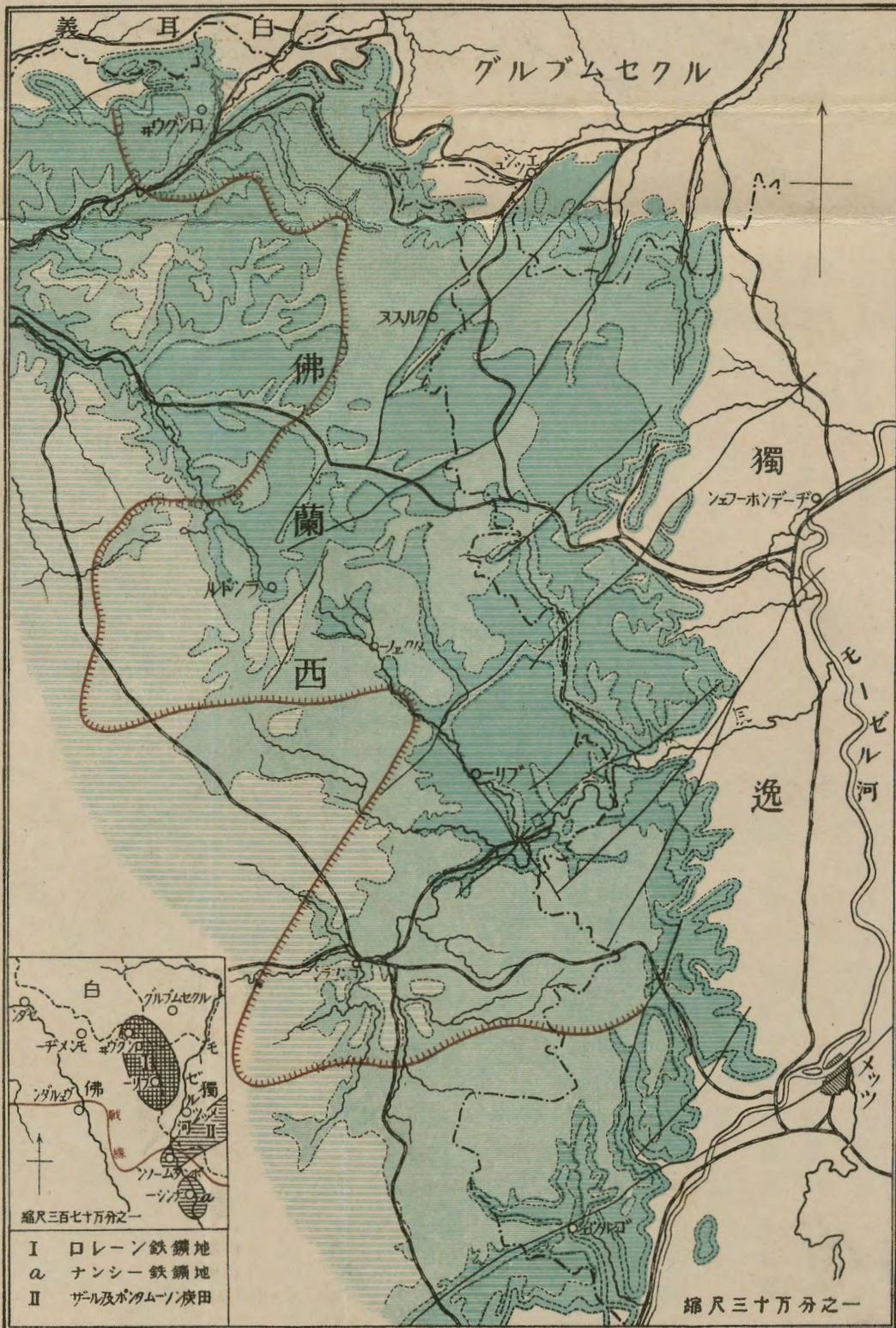
二 交戰地域ニ於ケル鐵鑛地 (第一圖及第七圖參照)

歐洲戰場附近ニハ佛、獨、ロレーン州ニ跨レル大ナル鐵鑛產地アリテ世界第一ト稱セラル、露領波蘭ニハ各處ニ散在シテ數多ノ鐵鑛產地アリ、未タ大ニ發達スルニ至ラスシテ其鑛量ノ如キ正確ニ計算セラレサルモ亦大富源ノ一タルヲ失ハス、此外獨逸、シレシア、埃國、カトバシアン山脈及クラカウ附近ニ鐵鑛ヲ産スルモ共ニ重要ナラス、今回ノ戰爭ノ開始セラル、ヤ當初佛國ハ「ロレーン」州ニ於テ攻勢ニアリシモ、數旬ヲ出テスシテ獨軍ハ佛國「ロレーン」鐵鑛地ノ大部分ヲ占領シ、露領波蘭ヲ侵シテ鐵鑛ヲ其手中ニ收メタリ、佛、露、獨ノ得失果シテ如何

(一) 「ロレーン」州鐵鑛地 (第四圖及第六圖參照)

一 鐵鑛量及產出額

「ロレーン」Lorraine 鐵鑛地ハ佛獨ルクセンブルグ、白ノ四國ニ跨リ、其總面積約五百方哩アリテ其埋藏鑛量世界第一ト稱セララル、鐵鑛ハ下部珠羅紀層ニアリテ南西ニ二三度ノ角度ヲ以テ緩斜シ、含鐵鑛層ノ厚サハ七十五呎乃至百七十五呎アリ、鐵鑛ハ層狀ヲナシ普通七層アルモ處ニヨリ八九層トナリ、或ハ一層ニ減スルコトアリテ必スシモ一定セス、厚サハ一米乃至二米トシ又三米ニ達スルコトアリ、鑛石ハ「ミネット」Minetteト稱シ鱈狀ヲナシ石灰質物、硅質物又ハ粘土質物ニテ膠結セラレ、主ニ含水褐鐵鑛ナルモ常ニ炭酸鐵ヲ含有シ、磷ノ含有有多ク、鐵ノ含有量ハ百分中三十乃至四十ニシテ平均三十二内外ナリ、一般ニ南西方ニ鐵鑛層ノ數減少シ其厚サ亦縮迫シ、鐵鑛中ノ硅酸増加シ石灰減少スル傾向アリト云フ、鑛層ハ北東及南東ニ露出シ南西方ニ傾斜スルヲ以テ該方面ニハ次第ニ地下深ク賦存シ其稼行ニ堪フヘキノ區域未タ明カナラス、抑「ミネット」ナル名稱ハ他ノ層位ヨリ採掘セル鑛石 Mine oreト區別スル爲メ



輕蔑ノ意味ニ於テ命名セラレタルモノニシテ、往時ニハ鐵ノ含有量少  
ナキニ反シ、燐ノ含有量比較的多ク、鐵鑛トシテ採掘ニ堪ヘス全ク無用  
ノ廢石タリシナリ、然ルニ「ベスマー」式熔鑛爐ノ發明ト共ニ其以前輕蔑  
シタル「ミネット」鑛石ハ多量ニ使用セラル、ニ至リ、遂ニ世界ノ鐵鑛業ニ  
主要ナル位置ヲ占ムルニ至レリ、蓋シ此ノ如ク鐵ノ含有低キニ關セス  
多量ニ使用セラル、所以ノモノハ、石灰ヲ含有シ熔劑ヲ用フルコトナ  
クシテ熔融スルコト、燐ノ含有多ク「トーマス」爐ニ適當ナルコト、鑛石多  
孔質柔軟ニシテ容易ニ還元及熔融スルコト、其結果骸炭ノ使用量少額  
ナルコト、採掘容易ニシテ採掘費ノ少額ナルコトニアリ  
本鑛床ハ露天掘又ハ坑内掘ニテ採掘セラレ前者ニテハ一噸五十錢、後  
者ニテハ一圓ニテ採掘シ得ヘシト云フ、其各國ニ埋藏セラル、鑛量及  
産出額ヲ比較スルニ第二十七表ノ如シ、蓋シ各國ニ於テ其計算ニ多少  
ノ差アルハ已ムヲ得サルナリ

第二十七表 (鑛量單位百萬噸、産出額單位噸)

	面積	鑛量	産出額			
			千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
獨逸 「ルクセムブルグ」ヲ含ム		三、六七、七〇	二六、七九、七〇〇	二九、八九、六六一	三三、七三、八七四	三五、九四、二八五
ルクセムブルグ	四、〇〇〇、〇〇〇 <small>ヘクタール</small>	三、三三〇、〇〇〇	一六、七五、一四四	一七、七五、七六一	一〇、〇八、三五六	一一、三五、五五四
佛國	三、六〇〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	一四、六五、五四二	一六、六九、〇〇〇	一九、六〇、〇〇〇	二二、九八、〇〇〇
ロレーン	七三、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇		一五、〇五、四八二	一七、三五、二六	一九、八三、五七二
白耳義		六二	一三三、九六〇	一五〇、五〇〇	一六七、七〇〇	一五〇、四五〇
ロレーン	三〇〇	採掘シ盡セリ				
ロレーン總計	一一九、九〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇				

此ノ如ク「ロレーン」地方ノ鐵鑛量ハ獨逸ニ於テハ同國總鐵鑛量ノ六割五分弱、佛國ニ於テハ九割強ニ該當シ、産出額ハ正確ナル統計ヲ得サリ

シモ總產出額ノ五割乃至八割ヲ占メ兩國ニ於ケル重大ナル寶庫ト稱スヘキナリ

佛蘭西「ローレーン」鐵鑛地中南方ニ散在シテ「ナンシー」「Nancy」盆地アリ、「ブリー」Briey (「ロルヌ」Lorraine「ランドル」Landres 及「タクエノー」Tucquegnieuy ヲ包括ス) 地方ハ現時最モ盛大ニシテ其北ニ連ナリテ「ロングウヰ」Longwy 及「クルヌ」Crusnes 地方ノ鐵鑛地アリ、其產出額ハ實ニ同國總產出額ノ約七八割ヲ占メ主ニ之ヲ獨逸ニ輸出シタリ、獨逸ハ「ルクセムブルグ」所產ノ鑛石ト共ニ殆ント其總產出額ノ七八割ヲ占メ佛、獨ノ鐵鑛業ハ實ニ「ローレーン」州ノ鑛石ニ據ルト稱スヘキナリ

## 二 普佛戰爭ト本鐵鑛地(第四圖參照)

本鐵鑛地ハ元佛國ニ屬シ其採掘ハ前世紀ノ中葉ニ始マリ其當時ハ露天及其附近ノミヲ採掘シタリ、蓋シ地質學幼稚ノ其當時ニ於テハ本鐵鑛ハ比較的上部ノ交代ニヨリ成生セラレ地下深キニ進メハ終ニ尖滅スト思惟セラレタリ、此地質學上ノ誤謬ハ政治史上ニ奇異ナル結果ヲ

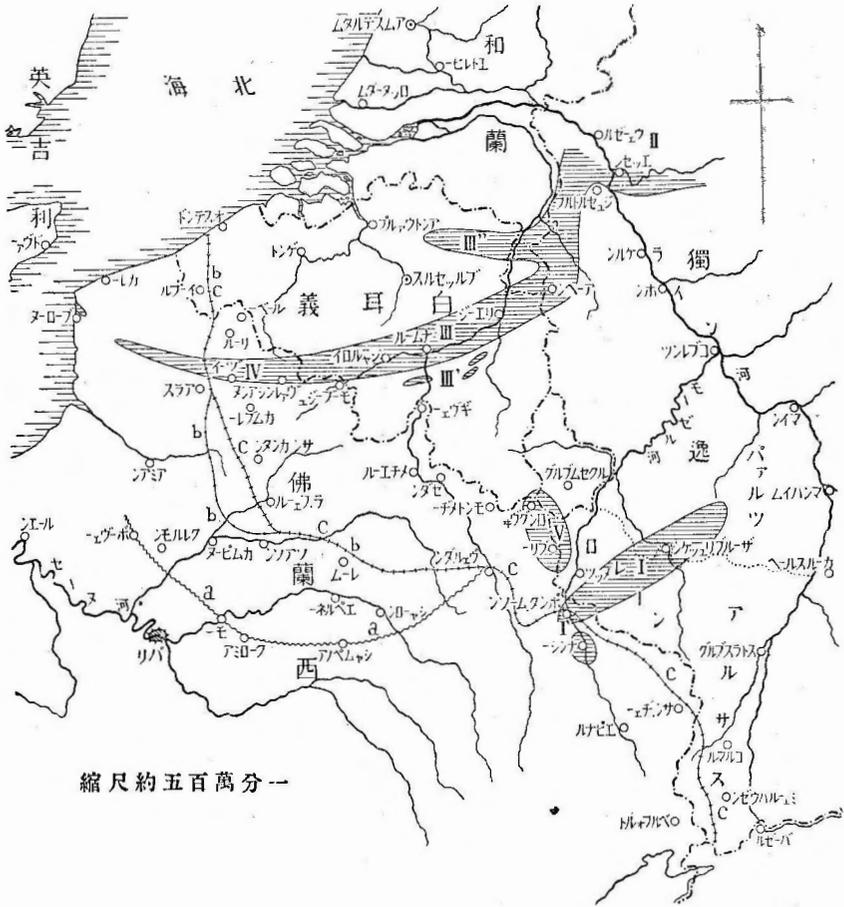
來セリ、千八百七十年ヨリ千八百七十一年ニ互レル普、佛戰爭ハ即チ鐵  
 血ノ交換ニシテ世人ハ多ク注意セサリシト雖モ普國ノ意ハ蓋シ此地  
 方ノ鐵鑛ニ存セシナリ、同戰爭ノ普國ノ勝利ニ終ハルヤ彼ノ有名ナル  
 鐵血宰相「ビスマーク」ハ「ライーン」ノ兩岸ハ普國ノ所有タルヘシト唱ヘテ  
 「アルサス」州ヲ奪ヒタリ、「ロレーン」州ニ至リテハ鐵鑛及石炭アリ、而シテ  
 「アルサス」州ニハ西方ニ「ヴォスゲス、ウァスガウ」山脈 *Vooges Wasgan Gebirge* アリテ  
 天然ノ境界ヲナスト雖モ「ロレーン」ノ地ニアリテハ西ハ遠ク巴里盆地  
 ニ至ルマテ波狀ノ臺地ニシテ其境界ヲ定ムルニ難シ、即チ「ビスマーク」  
 ハ「ザール」炭田ヲ自國ニ收ムルト共ニ佛國ヲシテ將來大鋼鐵國タラシ  
 メストノ深慮ヲ以テ其當時賦存スト思惟セラレタル鐵鑛區域ヲ殆ン  
 ト全部其領域ニ容レ、佛國ハ之ヲ甘受セサルヘカラサルノ已ムヲ得サ  
 ルニ至レリ、然ルニ「トーマス」式熔鑛爐ハ益發達シ、地質學ノ進歩ニ伴ヒ  
 「ミネット」鑛床ハ鑛層ヲナシテ地下深ク賦存スルモノナルヲ知ルニ至レ  
 リ、即チ佛國ハ戰爭ノ疲弊ヨリ恢復スルヤ銳意地質調査ヲ施行シタリ、

其結果同國ニハ鐵鑛床ヲ埋藏スル珠羅紀層ノ露頭ナケレトモ之ヲ被覆セル上部「ドッガー」層ハ廣ク佛國「ロレーン」州ニ分布スルヲ知リ、重要ナル珠羅紀層ノ必ス「ドッガー」層ノ下ニ賦存スヘシトノ確信ヲ以テ「ドッガー」層中ニ試錐シタルニ、果シテ珠羅紀層ニ會シテ獨逸ニ割讓セル「ロレーン」州ニ於ケルト同一ノ鑛床ヲ發見シ、更ニ精密ニ調査及試錐ヲ施行シテ前記ノ如ク曩ニ獨逸ニ讓渡セル鐵鑛床ヨリ更ニ大ナル鐵鑛床ノ自國內ニ賦存スルヲ確メテ大ニ意ヲ強フシ、鐵鑛ノ產出額ハ逐年増加スルニ至レリ、獨逸ニ於テハ曩ニ佛國ヲ大鋼鐵國タラシメストノ深慮モ今ヤ全ク水泡ニ歸シ其遺憾想フヘキト共ニ其豐富ナル鐵鑛床ニ垂涎スルコト久シカリキ

### 三 開戰後ニ於ケル本鐵鑛地(第七圖參照)

千九百十四年八月初旬戰爭ノ開始セラル、ヤ「アルサス」、「ロレーン」地方ニ於テハ佛軍ハ當初攻勢ヲ持シテ一度獨逸ニ侵入シタルモ八月二十四日優勢ノ獨軍ノ佛、白ノ國境ヲ越エテ佛國ニ侵入シタル結果「ロレー

# 圖 七 第



縮尺約五百萬分一

- |     |        |      |           |       |            |
|-----|--------|------|-----------|-------|------------|
| I   | ザール炭田  | I'   | ボンタムーソン炭田 | II    | ウェストファリア炭田 |
| III | ナムール炭田 | III' | チナン炭田     | III'' | カムピーン炭田    |
| IV  | 佛國北部炭田 | V    | ロレーン鐵鑛地   |       |            |
- a 千九百十四年九月五日  
 b 千九百十四年九月—千九百十七年三月 } 戰 線  
 c 千九百十七年四月—千九百十八年三月 }

ン」地方ノ佛軍亦退却シ、同二十六日佛軍ハ「ムジエール」Meziens「モンメジ  
ー」Montmedyノ戰ニ敗レテ殆ント現在ノ位置ニ退却シ「ナンシー」鐵鑛地ヲ  
除キ本鐵鑛地域ハ悉ク獨軍ノ手ニ歸シ、爾來遂ニ之ヲ恢復スルヲ得ス  
シテ以テ今日ニ至レリ、蓋シ獨逸ノ「ヴェルダン」攻撃ノ最大目的ハ本鐵鑛  
地確保ニ存シ、此地方ニ於ケル最大強堡タル「ヴェルダン」ニシテ落城スル  
ニ於テハ佛軍ハ更ニ甚タシク後退シテ其陣地ヲ維持スルニ至ルヘク、  
隨テ本鐵鑛地ハ全ク危險帶ヨリ脫シ獨逸ハ安全ニ此重要ナル軍需品  
ヲ採掘スルヲ得ヘク、同國ノ之ヲ重要視スル所以ヲ見ルヘキナリ  
獨逸ハ本地方ヲ占領シ直ニ鐵鑛ヲ採掘スルニ至レルモ其採掘量ハ明  
カナラス、而シテ獨逸ニ産スル鐵鑛ノ約六割ハ本地方ヨリ採掘ストノ  
報アルニヨリ察スルニ、獨逸ノ輸入杜絶ニヨリ失フトコロハ或ハ本地  
方ノ鐵鑛ヲ以テ之ヲ補フナルヘク、其採掘量ハ蓋シ尠少ナラサルヘシ、  
而シテ獨逸一年ノ鐵鑛産出額ハ三千萬噸ト稱ス、想フニ獨逸ハ開戰後  
瑞典ヨリ鐵鑛ノ相當ノ輸入アルヘキモ西班牙、佛蘭西ヨリノ輸入ハ全

ク杜絶シ本地域ノ占領ニヨリテ以テ鐵鑛ノ大需要ニ應スルヲ得ルナルヘク、若シ夫レ佛國當初ノ攻撃ニシテ效ヲ奏シ獨領「ロレーン」ノ地ヲ占領シテ獨「佛」ロレーン「州」ノ鐵鑛ヲ其手中ニ收ムルニ於テハ、石油ト同シク獨逸ハ長ク戦争ヲ繼續スルコト能ハサリシナルヘク、聯合國ノ爲メ深ク之ヲ遺憾トセサルヲ得サルナリ

## (二) 波蘭鐵鑛地(第八圖參照)

波蘭ニ於ケル鐵鑛ハ南部ニ集中ス、其産出額ハ僅少ニシテ一年百萬噸ニ滿タス、鑛床ニ二種類アリテ石灰岩中ノ交代鑛床及鑛層トシ、後者ヲ重要ナリトス

石灰岩中ニ交代鑛床ヲナスモノハ「ベンヂン」Bendinニアルモノヲ第一トシ褐鐵鑛ヨリ成リ、殻灰期層ノ下部石灰岩中ニ胚胎シ鑛巢狀ヲナス、其形狀ハ卵狀ヲナシ幅二三米、深サ八米乃至十二米、長サ七十米乃至百二十米ニ達スルモノアリ、品位ハ百分中鐵約四十ナリトス、本鑛床ハ「ベンヂン」附近ニ稼行セラル、モ鑛量ヲ計算スルニ至ラス



之ニ屬ス、鑛層ハ厚サ三呎乃至五呎ニシテ南方ニ傾斜シ褐鐵鑛ヨリ成ル、産出額寡少ナリ

「ドムプロヴァ」盆地ノ石炭紀粘板岩中ニハ菱鐵鑛介在シ、其上盤ニ炭層アリ、本鑛床ハ重要ナラス

主要ナルハ「ラドム」Radom 地方ノ三疊紀及珠羅紀ニ於ケル鑛層ナリトス、其分布ハ「ラドム」州「イルシヤ」Izha「コンスク」Konusk「オポチノ」Opotschno及「キエルジ」州ノ「キエルジ」ニシテ十一箇處ニ稼行セラレ、内八箇處即チ「ヤドウガ」Jadwiga「ポーエル」Pawel「シャルノウア、グラ」Sharnowa sura「プレスニューカ」Plesnjwka「アンナ」Anna「ヤーター」Peter「ブコウ」Bukowe「ダレュー」Dalejw 採鑛場ニ於テハ鑛床ハ斑砂期層又ハ「レーチック」期層ニアリテ一部ハ上疊期層中ニ介在ス、此鑛床ハ最南ニ位スルモノニシテ北西ニ「スタラチョウキゼ」Starachowizeヨリ「ブジン」Bzinニ至リ是ヨリ更ニ西方ニ連ナレリ、鑛石ハ主ニ褐鐵鑛ニシテ一部ニ菱鐵鑛アリ、鑛層ノ厚サハ普通一呎乃至四呎ニシテ深サ三十呎乃至六十呎ノ處ニ賦存シ、主ニ一層ナルモ

時ニ二層アリ、探掘鑛石ノ一部ハ獨領「シレシア」ニ輸出ス、其鑛量二百五十萬噸ナリ、鑛石ハ礬土及滿俺ヲ含ミ品位百分中鐵三四十ナリトス  
上疊期層中ノ鑛層ハ「ベンヂン」州ノ「セウエルシユ」Sewerski附近ニアリテ褐鐵鑛ヨリ成リ、獨逸國境ヨリ遠カラサル「ボレムバ」Poremba森及「ソンチョウ」Sontchowノ北部ニアリテ品位百分中鐵四五十ナリトシ稼行セラル、調査セラレタル地方ノ鑛量二十萬噸ナリ

珠羅紀ニアルモノハ所謂「クラコウオウエルジュンスキ」Krakowo-Wielunskij「クラアシヤ」Krajsh地方ニ集中ス、本層ハ「クラカウ」ヨリ始マリ「オルクシヤ」Olksch地方ノ「ラヅラウセ」Razhawizeニ連ナリ、是ヨリ南東——北西ニ互リ「オルクシユ」、「ベンヂン」地方ノ北東「チェンストチョウ」Tschensstchow及「ウエルジュン」Wielun地方ヲ通過ス、鑛石ハ球鐵鑛又ハ塊狀褐鐵鑛及鱈狀鐵鑛ナルモ後者ハ探掘セラレス、本層ハ「ドムブロヴァ」附近ニテ探掘セラレ、十六萬三千八百餘噸ノ銑鐵ヲ供給ス

球鐵鑛又ハ菱鐵鑛層ハ褐珠羅層中ニ多クハ二鑛帶ヲナシ時ニ三鑛帶

ヲナシ厚サハ十五乃至五十「センチメートル」ニシテ合計七十五「センチメートル」ニ達ス、本層中ニハ時ニハ六層アリテ上部五層ハ延長大ナリ、傾斜ハ緩ニシテ一度乃至十五度ノ間ニアルモ一帯ヲナセル斷層アリテ採掘ヲ困難ナラシム、深サハ十米乃至三十米ナルモ四十米ニ達スルコトアリ、品位ハ良好ナラスシテ百分中鐵三十乃至三十八、石灰一乃至六ナリトス、之ヲ焙燒スレハ鐵ハ四十一乃至四十六、滿俺一トナル各鑛山ニ於ケル産額ハ大ナラスシテ即チ左ノ如シ

「ロスニヤ」 Losnize	二九四、八五〇 噸	「カメニザ、ホルスカ」 Kamieniza Polska	一九六、五七〇 噸
「スカルカ」 Skalka	一三一、〇五〇	合	六二一、四七〇
		計	

現時重要ナルハ下層ニシテ上層ハ大部分採掘シ盡サレタリ「チェンストチョウ」ニ於ケル珠羅紀ノ鑛床ハ其面積二千平方露里ニ跨リ鑛量三千百萬噸アリ以上舉クルトコロニヨリ波蘭ニ於ケル鐵鑛ノ量ヲ合算スレハ三千三

百七十萬噸ナリトス、而シテ「コネツ」區域 Konez (Konisk) 「ラドム」州「オバトー」Opatow 及「イルシャ」、「キェルジー」州「キェルジー」、「オルクシテ」、「ピトロコー」州 Petřokow 「チェンストチヨウ」、「ベンヂン」、「カリツシュ」州 Kalisz 「ウエルジユン」地方ノ面積約一萬平方露里ニハ鐵鑛ノ賦存スルアリテ其内半ハ採鑛スヘク、其鑛量約三億ニ達スト稱セラル

波蘭ニ於ケル鐵鑛床ハ其調査未タ完カラス、其鑛業未タ發達スルニ至ラスト雖モ能ク銑鐵四十餘萬噸ヲ産シ、其量遙カニ南部露國ニ及ハスト雖モ能ク第三位ニアリ、其埋藏量及産出額ヲ總理藏量及總産出額ニ對比スルコト左ノ如シ

第二十八表 (埋藏量單位百萬噸、産出額單位噸)

總額	埋藏		産出	
	實測ニ基ツケルモノ	推定ニ基ツケルモノ	銑鐵	鐵
八六四、六	鐵鑛	鐵鑛	一、〇五六、三	四二四、七
三八七、二	鐵	鐵	四、六〇八、四五二	
			千九百十三年	

波蘭	三三、七	一〇、八	二六六、三	一〇九、二	四〇七、三七六
「クリウオイ、ロググ」	八六、〇	五三、三	大	大	三〇九七、三三五
「ケルチユ」	四五〇、〇	一八〇、〇	大	大	
「ウラル」	二八一、九	一三五、三	大	大	
中央露西亞			七八九、〇	二二五、〇	一九二、六六四
「コーカサス」	一三、〇	七、八	一、〇	〇、五	

本鐵鑛地ハ南露ノ「クリウオイ、ロググ」及「ケルチユ」並ニ「ウラル」ニ次キ重要ナリ、殊ニ南東露國ニ於テ「ドムプロヴァ」炭田ト共ニ最モ重要ナル地域ナリトス

千九百十四年八月開戦後獨軍ハ直ニ此地方ニ殺到シテ之ヲ占領シ同年十一月中旬ヨリ下旬ニ互リ露軍ノ最モ進撃シタル際ニ於テモ遂ニ悉ク之ヲ恢復スルニ至ラス、蓋シ此地方ニハ「ドムプロヴァ」炭田アリ、隨

テ鐵鑛業經營ニハ便利ニシテ開戰後共ニ直ニ獨、埃軍ニ歸ス、開戰前ニ於ケル產出額ハ敢テ多大ナリト稱スルヲ得サルモ戰線附近ニ於テ此必須ノ物資ノ得喪ハ其戰局ニ及ホス影響ノ少ナカラサルヲ信スルモノナリ

本鐵鑛地ノ獨、埃軍ニ占領セラレタル後ノ狀況ニ就テハ之ヲ知ルヘキノ資料ナシ、蓋シ其鑛業ハ戰爭ノ爲メ損害ヲ被レルナルヘキモ戰線附近ニ於ケル唯一ノ鐵鑛業地ナルヲ以テ獨、埃軍ハ直ニ復舊ニ努力シタルナルヘク、其產出額ハ開戰前ト大差ナキナラン

### 三 開戰後ニ於ケル鐵鑛供給ノ變動

開戰後ニ於ケル各國ノ鐵鑛產出額ハ之ヲ知ルノ資料ヲ得ス、銑鋼ノ統計ニモ疑フヘキモノアルモ其產出額ヲ左ニ掲ク

第二十九表 (單位噸)(統計ノ出所皆異ナルヲ以テ各表ノ統計ニ多少差異アリ)

北米 合衆國	獨逸	英國	加奈太	埃洪國	佛蘭西	白耳義	伊太利	露國	西班牙	瑞典	其他	合計
-----------	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	----	----	----



モ寧口獨、埃ノ同盟國ニ有利ナリシカ、如シ、開戦後ニ於テハ獨、埃國ハ海上ノ交通ヲ遮斷セラレタルモ佛國ノ大鐵鑛産地ナル「ロレーン」州ノ大部ヲ占領シ、露領波蘭ヲ併セテ鐵鑛ノ供給ニ於テ大變動ヲ生シタルモ銑鐵、鋼鐵ノ産出額ニ於テハ兩交戦國ニ於テ略均衡ヲ失セサルカ如シ、開戦後英國ニ於ケル鐵鑛ノ供給ハ開戦前ト殆ント差違ナク銑鐵、鋼鐵ノ産出額ニ於テモ敢テ大ナル差違ナシ、即チ左ノ如シ

第三十表 (單位噸)

年次	鐵		鑛		銑鐵		鋼鐵		備考
	産出額	輸入	輸	出	産出額	産出額	産出額		
千九百十二年	八、五五二、三四三	六、七〇八、四四三		六、二四一	八、八八九、一二四	六、七九五、一四四			
千九百十三年	一六、二六三、九五〇	七、五六六、二七六		五、二七八一〇、四八一、九一七	七、六六三、八七六	七、六六三、八七六			千九百十三年ハ世於ニ於テテアリシ年ナリ
千九百十四年	一五、一一五、三七五	五、七九九、九一八		一三、七四二	九、〇〇五、八九八	七、八三五、一一三			
千九百十五年	一四、四六四、一九六	六、三〇六、五四七		一、六九七	八、七九三、六五九	八、五五〇、〇一五			

千九百十六年

七、〇一七、二二二

一、二六三

九、〇四七、九八三

九、二四四、四五七

佛蘭西ニ於テハ「ロレーン」鐵鑛地ノ大半ヲ失ヒタルモ同鐵鑛地產鐵鑛ハ多ク之ヲ輸出シタルヲ以テ同國ノ製鐵事業ニ及ホセル影響ハ比較的小ニシテ良好ナル鐵鑛ハ主ニ西班牙等ヨリ輸入シ千九百十五年ニハ二十七萬餘噸、千九百十六年ニハ約六十三萬噸ヲ輸入シ銑鐵、鋼鐵ノ產出額ノ開戰前ヨリ甚タシク減少セサリシハ幸ナリトス

露西亞ハ海外トノ交通ヲ遮斷セラレ波蘭ノ鐵鑛業地ヲ失ヒ、其結果產出額ハ比較的減少シタリ、左ニ銑鐵ノ產出額ヲ擧ケン

第三十一表 (單位噸) (第三十表ト一致セス、本表蓋シ正ナラン)

	千九百十三年	千九百十四年	千九百十五年	千九百十六年
南	三、〇九七、三三五	三、〇四〇、一八八	二、七四三、〇二八	二、八八四、六五四
露	九一一、〇七六	八五五、五六三	八三二、七〇五	七五三、六〇五
「ウ ラ ル」				

中	露	波	關	合	計
一九二、六六四	一七一、四三九	四〇七、三七六		四、六〇八、四五二	四、〇六七、一九〇
一三〇、六二〇				三、七〇六、三五三	
一五八、七五二				三、七九七、〇一一	

獨、埃ハ開戰後外國ヨリノ輸入ヲ絶タレタリ、而モ尙瑞典ヨリハ其鐵鑛ヲ輸入シタルヘキヲ信スヘキ理由アリ、蓋シ同國ヨリ獨逸ニ輸出スル鐵鑛ハ北極圏内ニアル「キルナヴァラ」地方ノモノヲ主トシ、該鐵鑛ハ諾威ノ「ナルヅヰック」Narvik港ヨリ海路北海ヲ經テ獨逸ニ輸出セラレタリ、開戰ト共ニ兩國ノ海上ノ交通運搬全ク杜絶シ、隨テ該鐵鑛ハ鐵路南瑞典ニ搬出セラレ同地方ヨリ獨逸ニ輸出セラル、カ、又ハ夏季ニハ鐵路「バルチック」沿岸ノ瑞典ノ「ルレオ」Luleo港ニ搬出シ是ヨリ海路ニヨレルナルヘキモ其量ハ開戰前ニ比シテ寡少ナルヘシ、而シテ佛、西兩國ヨリノ輸入ハ全ク絶望トナレリ、想フニ獨逸ノ位置トシテ其鐵鑛ニ對スル慾望ハ一日ノ故ニアラサルナリ

獨逸ハ開戦ト共ニ西部戰場ニ於テハ其垂涎措カサリシ佛國「ロレーン」州鐵鑛地ヲ占領シテ其素志ヲ達シ、東部戰場ニ於テハ波蘭鐵鑛地ヲ收メタリ、故ニ海外ヨリノ輸入ヲ絶タレタリト雖モ其供給ニ於テ敢テ缺クルトコロナシ、開戦後其產出額ノ減少シタルハ供給不足ノ故ニアラス、元來獨逸ハ銑鐵、鋼鐵輸出國ニシテ或ハ貯藏其他ノ理由ニヨリテ多額ヲ要セサリシニ因ラン、而シテ千九百十六年ニハ鋼鐵一箇月百四十餘萬噸ヲ製出スルニ至リ殆ント開戦前ノ狀態ニ復セントス佛國「ロレーン」州及露領波蘭鐵鑛地ノ獨軍ニ占領セラレタル結果、獨、埃ニ於テハ銑鐵、鋼鐵ヲ製出スルニ新設備ヲナスノ必要ナク直ニ占領地ニ於ケル露、佛ノ施設ヲ利用スルコトヲ得、殊ニ戰線附近ニ於テ銑鋼材ヲ製造シ得ルノ利便ヲ獲得シタルニ反シ、露、佛ハ自國ニ於ケル施設ハ敵軍ニ奪取セラレ、遠隔ノ地ニアル鐵鑛地ニ之ニ代ルヘキ新設備ヲナスヲ要シ、其產出額ハ開戦前ト敢テ甚タシキ相違ナシト雖モ其難易同一ノ論ニアラス、殊ニ戰時交通運搬ノ繁忙ナルノ際獨、埃ノ之ヲ戰場附

近ニ得ルト、露佛ハ之ヲ遠隔ノ地方ヨリ運搬スルト其得失ハ叙説ヲ待  
タスシテ明カナリ、若シ夫レ銑鐵、銅鐵及其製品ニシテ不足スルコトア  
ランカ佛國ハ其不足ヲ或ハ英國ニ仰キ、或ハ遠ク海ヲ越エテ北米合衆  
國ニ仰カサルヘカラス、露國ニ至リテハ東洋方面ヨリ之ヲ供給スルコ  
ト敢テ不可能ニアラスト雖モ其不便更ニ甚タシク、大ニ節約シテ自給  
自足ニ待タサルヘカラス、兩國ニ於ケル自給果シテ如何、之ヲ獨、埃ノ狀  
態ニ比シテ果シテ如何、茲ニ之ヲ叙スルノ要ナシ

### 結 論

石油、石炭及鐵ノ重要ナルコトハ多言ヲ要セス、若シ其一ヲ缺クニ於テ  
ハ戰爭ハ之ヲ繼續スルコト能ハサル亦叙説ヲ要セサルヘシ、由來歐洲  
各國ニ於テ鐵鑛及石炭ニ最モ豊富ナルヲ獨逸トシ、英國之ニ次キ、佛國  
ハ第三位ニアルモ遙カニ下リ、露、埃之ニ次ク、其他ノ諸國ニ於テハ鐵鑛  
ニ豊富ナル瑞典、西班牙、諾威アリ、石炭ヲ埋藏スル白耳義アリ、其他ノ諸  
國ハ敢テ舉クヘキナシ、石油ニ至リテハ露西亞ヲ第一トシ、羅馬尼之ニ

次クモ遙カニ下リ、奧太利第三位ニアリ、其他獨逸ニ小油田アリ、英國ニ石油頁岩アリ、其他ハ舉クルニ足ラス、蓋シ此等鑛物ノ產出額ハ既知ノ埋藏量ニ對シ比較的の多量ナルヲ以テ歐米ノ強國ハ之カ需給ニ關シ攻究スルコト歲アリ、或ハ之カ輸入ヲ計リ或ハ之カ輸出ヲ制限シテ各自國ニ於ケル鑛物ノ保全ニ努メ、或ハ外國ニ資本ヲ投下シテ其供給ヲ裕ニセンコトヲ計リ、其本國ハ固ヨリ殖民地並ニ世界ノ各國ニ於ケル調査ヲ怠ラス、以テ國家百年ノ大計ヲ樹立センコトヲ期セリ

開戰前ニ於ケル以上三鑛物ノ產出額及分布ノ狀態ヲ見ルニ英、佛ニ於テハ鐵鑛及石炭ニ於テ少シク獨、奧ニ劣リ、露國ヲ加ヘタル英、佛、露三國聯合スルニ於テハ獨、奧ニ優レリ、然レトモ其供給ニ於テ或ハ聯合國及同盟國ニ於テ敢テ甚タシキ逕庭ナキカ如ク、有利ニ之ヲ使用スルニ於テハ兩交戰諸國殆ント均衡ヲ得タルモノト稱スルヲ得ヘキカ、石油ニ至リテハ其分布ノ地域偏在スル爲メ英、佛ニ於テハ其量甚タ少ナク之ヲ海外ニ仰カサルヘカラサル不利ノ地位ニ在リ、獨、奧ニハ稍豊富ナル

油田アリ、其隣國ニハ羅馬尼油田アリ、英、佛ヲ凌駕スルニ反シ、露國ニハ世界第二ニ位スル大油田ヲ包括セリ

開戦後西部戰場ニ於テハ獨軍ハ一舉ニシテ白耳義ノ炭田ヲ占領シ、佛國第一位ノ北部炭田ノ過半ト共ニ之ヲ其手中ニ收メ、及佛國第一位ノ「ロレーン」州ノ大鐵鑛地ヲ占領シタリ、蓋シ中立國ノ侵略モ戰略ト彼ノ隆盛ナル鑛工業ニ如カサリシモノアラン

翻テ東部戰場ヲ見ルニ獨軍ハ直ニ露領波蘭ヲ侵シテ露國第二位ノ「ドムブロヴァ」炭田及諸處ニ散在セル波蘭鐵鑛地ヲ占領シタリ、埃太利方面ハ當初露軍善戰シ瓦利亞ヲ占領シテ同油田ヲ其手中ニ收メタリ、獨逸ハ一年僅カニ百萬「バーレル」内外ノ石油ヲ産スルノミナルヲ以テ之ヲ以テ同國ノ需要ニ應スルコト能ハサルヤ論ナシ、蓋シ獨逸ニハ開戦前ヨリ相當ノ貯油アリシナルヘシト雖モ長ク之ニ依ルコト能ハス、即チ獨逸軍ハ捲土重來シ半年餘ニシテ同油田ヲ恢復シタリ、爾來獨逸ハ同油田ノ復興ヲ計リシモ其產出額ハ一年七百萬「バーレル」内外ニ過

キスシテ一部ヲ羅馬尼ヨリ輸入シ貯油ト共ニ其不足ヲ補ヘリ、而モ輸出制限又ハ禁止ノ爲メ動モスレハ其不足ヲ致シ、戰爭開始後露西亞及羅馬尼ノ油田ヲ獲得センコトニ腐心シタリ

千九百十六年八月羅馬尼ハ聯合國ニ參加シテ獨、埃ト戰端ヲ開キ、當初ハ優勢ニシテ國境ヲ越エ洪國ニ侵入シタリシモ、十月ヨリ優勢ノ獨、埃軍ニ壓セラレテ退却シ、獨、埃軍ハ勢ニ乘シ羅馬尼ニ入り製油所及貯油所ニ殺到シテ原油及其製品ヲ手中ニ收メ及其油田ヲ占領シタリ。此ノ如ク獨、埃軍ハ開戰後直ニ露、佛ニ於ケル重要ナル炭田及鐵鑛地ヲ占領シテ之ヲ其手中ニ收メ、之ニ伴ヘル鑛工業亦其手中ニ入り、戰爭ノ爲メニ蒙レル損害ハ各其技術者ヲ派遣シテ之カ復舊ヲ計リ、開戰前ニ於ケルト略同一ノ状態ニ於テ其鑛工業ヲ開始スルニ至リ、新ニ施設スルコトナクシテ物資ノ供給ハ豊富トナレリ、殊ニ比較的戰線ニ近ク此必須ノ物資ノ供給ヲ得タルハ同盟國ノ最モ利便トスルトコロニシテ其戰局ニ及ホス好影響ハ蓋シ意想ノ外ニアラン

翻テ英、佛ノ聯合軍ヲ見ルニ獨、埃ノ同盟軍ニ反シ第一位、第二ノ炭田並ニ鐵鑛地ヲ失ヒ之ニ伴ヘル鑛工業亦獨、埃軍ニ奪取セラレ、急ニ之ニ代ルヘキ新施設ニヨリ其失ヲ補ハサルヘカラサルノ不利ニ陷レリ、由來鑛業ハ急速ニ其產出額ヲ増加セシムルニ難ク、殊ニ戰時ニ於テハ各種ノ困難ノ事情アルヲ以テ產出額ハ動モスレハ減退スルノ傾向アルニ反シ需要ハ益増加ス

此ノ如ク開戰後交戰國ニ於ケル石炭ノ供給ハ均衡ヲ失シ、開戰前石炭輸入國ナリシ佛國ハ更ニ多量ノ石炭ヲ英國ニ仰カサルヘカラサルニ至リ、露國ハ海外トノ交通ヲ絶タレタルヲ以テ石油及薪材ニヨリ其不足ヲ補ハサルヘカラス、鐵鑛ニ於テハ佛國ハ輸出國ナリシト、波蘭ノ鐵鑛業ノ盛大ナラサリシ爲メ其打撃比較的小ナリシト雖モ敵國ニ此大ナル資源ヲ供給シ其鑛業ヲシテ容易ニ増進スルニ至ラシメ、戰線附近ニ其供給ヲ得セシメ、露、佛ハ或ハ其製品タル武器ヲ外國ニ仰カサルヘカラサルコトアル等ノ不利アリ、實ニ露、佛ノ之ヲ失ヒ、獨、埃ノ之ヲ得タ

ルノ結果ハ兩交戰國ニ於ケル此必須ノ石炭、鐵ノ供給ニ於ケル均衡ヲ失セシメタルノミナラス、一ハ比較的戰線ニ近ク之カ供給ヲ受クルヲ得ルニ反シ、一ハ遠隔ノ地方又ハ海外ヨリ之カ供給ヲ仰カサルヘカラスシテ其得失ハ火ヲ賭ルヨリ瞭カナリ、實ニ開戰ノ當初聯合軍ハ此必須ノ鑛物戰ニ於テ獨、埃ニ機先ヲ制セラレ復タ之ヲ恢復スルコト能ハサリシハ頗ル遺憾ナルト共ニ獨逸ノ周到ナル注意ニ感セスンハアラサルナリ

石油ニ關シテハ石炭及鐵鑛ト稍趣ヲ異ニセリ、獨逸ハ開戰ト共ニ和蘭等ノ中立國ニアル石油ヲ買收シ、瓦利亞亞油田ノ產出額ノ増加ヲ計レリ、然ルニ開戰後幾何ナラスシテ其油田ハ露軍ニ占領セラレタリ、然レトモ其之ヲ領有スルト否トハ戰局ノ岐ル、トコロナルヲ以テ半歲餘ニシテ之ヲ恢復シタリ、此間自國產ノ石油ト貯油トニヨリ需要ニ應シ瓦利亞亞油田ヲ恢復シタル後ト雖モ貯油及羅馬尼ヨリノ輸入石油ニ待タサレハ軍國ノ需要ニ應スルコト能ハス、而シテ貯油ハ次第ニ減少

シ羅馬馬尼ヨリノ輸入亦意ノ如クナラス、茲ニ羅馬馬尼ノ參戰トナリ同國  
油田亦半歲ナラスシテ獨、埃軍ニ歸セリ、此ノ如クシテ獨、埃ハ石油ニ於  
テ殆ント潤澤ナル供給ヲ得タルニ反シ、英、佛ハ遠ク之ヲ海外ニ仰カサ  
ルヘカラサルノ不利ノ位置ニアリ、獨リ露國ハ豊富ナル油田ヲ有スル  
ヲ以テ其供給ニ於テ缺クルトコロナキモ石炭ノ補給ト共ニ運搬ノ不  
便アリ、實ニ石油ニ於テモ亦獨、埃同盟軍ハ聯合軍ニ比シテ甚タ有利ナ  
ルノ位置ニアルコト識者ヲ待タスシテ明カナリ

此ノ如ク獨、埃ノ同盟軍ハ此必須ナル石油、石炭及鐵鑛ニ於テ豊富ナル  
資源ヲ獲得シ、其供給ニ於テ遂ニ缺クルトコロナキニ至レルニ反シ聯  
合國ハ甚タシク不利ノ位置ニアリ

想フニ獨逸ハ既ニ久シク是等鑛產地ニ對シ深甚ノ注意ト詳細ナル調  
査ヲ施行シ、機會アル毎ニ之ニ對シ或ハ資本ヲ投下シ、或ハ之ヲ其手中  
ニ收メテ自國ノ供給ヲ豊富ニセンコトニ努メタリ、今回ノ開戰ト共ニ  
獨軍ノ直ニ此等大鑛產地ヲ占領シタル所以ノモノハ固ヨリ軍略上當

然ノ進路ナルヘシト雖モ、一ハ敵國ノ鑛工業ニ大打撃ヲ與ヘテ軍國ニ  
必須ノ物資ノ供給ヲ奪ヒ、一ハ之ヲ自國ニ收メテ其供給ヲ豊富ニセン  
計畫ナリシコトモ之ヲ輕視スヘカラサルナリ、其結果英、佛軍ニ於テハ  
動モスレハ不足ヲ致シ、之ヲ北米合衆國等ニ仰カサルヘカラサルニ至  
リ、殊ニ石油ニ至リテハ殆ント全ク海ヲ越エテ遠ク之ヲ海外ニ仰ケリ、  
管ニ交通運搬上ヨリ之ヲ見ルモ交戰地附近ニ必須ノ物資ノ供給ヲ得  
ルト、遠隔ノ地方ヨリ之ヲ輸送スルト其利害得失自ラ判然タリ、若シ夫  
レ露國ニシテ開戰ノ當初占領セル瓦利西亞油田ヲ確實ニ占領シ、佛國  
ニシテ當初ノ優勢ヲ持續シテ獨領「ローレン」州ニ入り其鐵鑛地ヲ確實  
ニ領有スルニ於テハ獨逸ハ假令自國ニ百萬「バーレル」ノ石油ヲ産シ、自  
國産ノ五百萬噸乃至千萬噸ノ鐵鑛ノ外瑞典ヨリ相當ノ鐵鑛ヲ輸入シ  
得ヘシトスルモ、到底長ク戰爭ヲ繼續シテ今日ノ如ク優勢ナルコト能  
ハサルヤ論ヲ待タサルトコロニシテ、當初ニ聯合軍ノ此鑛物戰ニ失敗  
シタルハ實ニ遺憾ナリト云ハサルヘカラス

今ヤ露西亞ハ自國ノ革命ノ爲メニ遂ニ敗レテ和ヲ講スルニ至レリ、想  
フニ露西亞第一位ノ「ドネツ」炭田ハ是ヨリ東數十里ニアリ、其間ニ露國  
第一位ノ「クリウオイ、ログ」Krivoi-Rog 鐵鑛地アリ、黑海ニ突出スル「クリミヤ」  
半島ニハ同國第二位ノ「ケルチ」Kertsch 鐵鑛地アリ、既ニ世界第二位ノ「バ  
ク」油田ノ輸出港タル「バツーム」ハ之ヲ土耳其ニ割讓セシメテ事實上「バ  
ク」油田ヲ其手中ニ收メントス、獨逸ニシテ豈ニ以上舉クルトコロノ三  
大鑛產地ヲ顧ミサルコトアラシヤ(第一圖參照)

講和ニ關シ獨逸ハ或ハ「アルサス」ロレーン」ノ地ヲ佛國ニ返付スヘシト  
論スルモノアリ、是レ想ハサルノ甚タシキモノナリト云ハサルヘカラ  
ス、「ロレーン」ノ地ハ豊富ナル石炭ト鐵鑛トヲ包括シ普、佛戰後佛國ヲシ  
テ鋼鐵國タラシメストノ抱負ヲ以テ割讓セシメタルノ地ナリ、獨逸豈  
ニ容易ニ此重要ナル地域ヲ拋棄スルモノナランヤ、或ハ戰捷ノ餘威ヲ  
以テ露國ノ鐵鑛產地ヲ領有スルコトアリトスルモ既知ノ鐵鑛埋藏量  
ハ遙カニ「ロレーン」州鐵鑛埋藏量ノ大ナルニ及ハス、獨逸ニシテ佛國ノ

大鋼鐵國タルヲ忍ヒ及其武器ヲ棄テ、鐵鑛業ニ介意スルコトナクン  
 ハ即チ己ム、苟モ現時ノ方針ヲ改メスシテ鑛工業ノ發展ヲ期スルニ於  
 テハ到底「ロレーン」ノ地ヲ割讓スルコト能ハサルノミナラス、佛領「ロレ  
 ー」ノ地モ亦之ヲ併吞セサレハ已マサルヘキハ自然ノ數ナリトス  
 今ヤ戰爭將ニ酣ナルノ際各交戰國ハ既ニ戰後ノ經營ニ腐心ス、獨逸ノ  
 抱負ハ固ヨリ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ戰爭ノ經過等ヨリ察スルニ獨  
 逸ハ「バク」、羅馬尼、瓦利亞ノ三油田ニヨリ石油鑛業ニ大飛躍ヲ試ミン  
 トスルナルヘク、石炭ニ於テハ現ニ領有スルモノ、外露國第一位ノ「ド  
 ネツ」炭田ヲ其手中ニ收メサレハ已マサルヘク、鐵鑛ニ於テハ南露ニ於  
 テ有名ナル「クリウアイ、ロググ」、「ケルチュ」鐵鑛地ニ著目シ佛領「ロレ  
 ー」鐵鑛地ト共ニ長ク之ヲ領有セント企圖スヘク、此ノ如クナルニ於テハ歐洲  
 ニ於ケル此等三大鑛物ノ富源ハ殆ント獨逸ノ手ニ歸スヘク、獨逸ハ之  
 ニヨリ大ニ其鑛業ヲ開發シテ世界ニ雄飛シ遂ニ覇ヲ天下ニ稱ヘンコ  
 トヲ期スルハ之ヲ想像スルニ難カラス、豈ニ恐ルヘキニアラスヤ

今回ノ戦争ハ如何ニシテ終局スヘキヤ固ヨリ之ヲ知ル能ハスト雖モ  
獨逸ノ平素ヨリ鑛産地ニ著目シ詳細ナル調査ヲ施行シ、豫メ其地點ヲ  
攻究シ、開戦ノ當初ニ於テ敵國ノ物資ノ供給ヲ奪ヒテ自國ノ供給ヲ豊  
富ニス、是レ豈ニ他山ノ石トシテ之ヲ觀過スヘキニアラサルヘク、官民  
諸氏ノ特ニ茲ニ留意セラレンコトヲ望マサルヲ得サルナリ

大正七年十月二十日印刷  
大正七年十月二十三日發行

# 著作權所有

# 農商務省

印刷者 吾妻菊三郎  
東京市神田區通新石町三番地

印刷所 東陽堂  
東京市神田區通新石町三番地  
合資會社

發賣所 東陽堂  
東京市神田區通新石町三番地  
合資會社

電話本局九二九番  
振替口座東京二三四三六番